京城日報

二十日夕刊

定價　一部金二錢五厘 一ケ月金五拾錢 [illegible]

廣告料　[illegible]

發行兼編輯人　[illegible]　印刷人　[illegible]

發行所　京城太平通一丁目　合資會社 京城日報社　電話 [illegible]

四國公使密議 外交上の新問題か

北京駐在英、佛、露三國公使は十九日午前十一時日置公使を訪問し帝政問題及び南方擾亂に關し凡そ一時間に亘り密議せり支那側は新なる外交上の難問題發生すべしと憂慮しつゝあり（北京特電）

獨逸の對和蘭回答

獨逸政府は和蘭が二月四日附にて獨逸水雷艇の司令官の處置に關する質問書を發せるに答へて曰く水雷艇の暴行は司令官自身の行爲なることを容認し且該司令官の不法を難じ此の事件より生ずる損害に對して出來得る丈辨償の方法を取るべきを言明せり（倫敦電報）

イーブル戰線敗退か

伯林公報は主張して曰くイーブルの戰線に於て英軍は大損害を被り同方面の逆襲は不成功を以て行はれつゝあり（桑港電報）

財部中將全快

福岡にて療養中なりし財部海軍中將は最早全快せしより二十日午前八時二十分大阪通過東上せり（大阪特電）

川村中將著神

川村第九師團長は病氣療養の爲二十日神戸著令弟宅に入れり（大阪特電）

若見侍從武官

御慰問使若見侍從武官は廿日大田より公州に著し守備隊を慰問せり（光州特電）

租税收入成績 四年度の收入額

本年一月末現在に依る大正四年度の租税及び驛屯土收入徵收額左の如し

▲租税　調定額一千二百八十八萬四千六百九十五圓に對する收入額九百二十萬三千六百二十二圓にして未收入額三百六十七萬五千四百九圓を存し調定濟額千圓に對する收入額は七百十四圓に當れり

▲驛屯土　調定額百五十五萬七千七百七十九圓にして百四十四萬九千三百三十九圓を收納し十萬七千五百二十圓の未收入あり調定額千圓に對する收入額は九百二十圓を算せり

▲地税　調定額一千五萬九千七百五十九圓にして收入額六百四十八萬二千二百九十六圓を算し、三百五十七萬四千四百五十九圓の收入未濟額あり、調定額一千圓に對する收入額は八百九十一圓なり

▲戸税　調定額七十九萬六千六百八十七圓にして七十九萬六千三百七十九圓の收入を見、未濟額は二百六十四圓に過ぎず調定額一千圓に對する收入額九百九十九圓の多きを算せり

▲家屋税　調定額二十三萬二千三百五十二圓に對する收入濟額二十一萬九千五百四十六圓にして一萬三千八十七圓の未收額あり、調定額千圓に對する收入額は九百四十一圓に當れり

▲酒税　調定額八十六萬七千三百十三圓にして既收入額八十四萬三千九百十八圓を算し二萬三千二百三十八圓の未收入額あり調定額一千圓に對する收入額は九百七十三圓に相當せり

▲鑛税　調定額三十七萬四千七百圓に對する既收入額三十一萬七千六百六十六圓にして未收入額五萬五千七百十圓あり調定額一千圓に對する收入額は八百四十七圓なり

▲雜税　其他の雜税は三萬六千三百七十三圓の調定額中三萬一千五百三十八圓の既收入あり未收入額四千八百十五圓にして調定額千圓に對する收入額は八百六十七圓に當れり

二月上旬鐵道運輸

二月上旬分旅客乘車人員十二萬三千七百七十三人客車收入九萬三百二十一圓にして之を前年同旬に比するに殆ど大差なく僅に人員は二千百七十一人即ち一分七厘を減じ收入は二百二十一圓即ち二厘強の增加を示したり前年以來各旬が前年同旬に比し少きは一割二分餘多きは三割に達せんとする增加を得來りたる良好なる成績に對比すれば一見甚だ不良にして本旬分輸送の振はざる事明なりと雖も急轉して斯の如き成績を示したるは本月四日が舊曆元旦に相當し、（前年は二月十四日が元旦）以降連日の旅客交通大打擊を蒙りたる例年同樣の止むを得ざる事由に依りたるものにして試に之を例證するに本月三日以前に於ては一日の平均乘車人員約一萬四千人客車收入一萬千圓に達せんとしたるも元旦以來一日の平均乘車人員壹萬數百人客車收入八千圓內外を辛うじて保持し得たるに止まれり而も之を他の方面より見るときは元旦を行したる旬として假令僅少なりと雖も前記の如き增加を得たるは從來の記錄に比し成績として寧ろ良好なるものありと云ふ事を得ざるに非ず其他連絡船に依る內地連絡旅客發著約二千四百數十名にして前年同旬に比し二百名弱を增加したるは氣候温暖なること其一因なるべく又團體旅客は季節柄甚だ振はず前年同旬の五百三十餘名に比し僅に本旬に於ては百餘名の輸送を爲せしに止まれり、牛小荷物輸送總數量二十五萬五千零五十二斤にして前年同旬に對する減少一萬四千百五十四斤即ち五分三厘とす其主因は鮮魚輸送十二萬五千四百九十七斤即ち前年同旬よりも二萬二千八百六十二斤を減少せしに依るものにして主として釜山馬山兩地發送の不振なるに基因す

平壤府の財政 新戸別割の設定

平壤府の大正五年度歳計豫算は目下當局者の手に於て編成中なるが經常臨時部歳出入共其の合計は▲朝鮮唯一の施設たる排水工事繼續並に多少の新計畫ある爲め十三萬圓强となるに一方市街地税附加税其他の府税並に雜收入を合するも八萬圓に過ぎず之れに土木事業國庫補助の繼續年額割二萬五千圓を加ふれば十萬五千圓前後にして結局二萬四五千圓の不足となる勘定なるが該額の塡補策に付某當局は曰く何分府としては大事業たる排水工事（五年度六萬七千圓）を施設する爲め市政難に苦しむは止むを得ざる所なり四年度に於ても地方費の補助八千圓ありしも尙ほ一萬六千圓の不足を生じ該額の府債を起したるが此上尙府債を負擔するは堪へ難き事に付五年度の不足額約二萬五千圓は道廳地方費の補助を前年度八千圓排水事業著手當時の豫算の如く一萬三千圓乃ち五千圓の增額を乞ひ自餘の不足は

▲新税特別戸別割の設定により辛くも補ひ得べし特別戸別割は既に府協議員の諮問を經て道廳に伺ひ中なるが其の趣旨は地位等級と居宅の面積により擔當税額を賦課せんとするにて官吏會社銀行員と雖も納税の義務を生じ來る譯なるがこれ敢て平壤府のみの加重負擔に非ず他府に其例のあるあり唯税制の內容は監督官廳の認可後に非ざれば上述の如く決定するや否や判明せず（平壤）

南浦實業學校

▲六萬圓寄附の使途　鎭南浦中村組の寄附に係る教育事業費六萬圓の使途に就ては平南道廳に於て關係各方面の意見を徵し亦諸種の事情を參酌して折衷研究中なりしが總督府より多額の補助困難なるより大規模の實業學校經營は姑く之れを見合せ結局寄附者の意思も尊重して現に鎭南浦府立にして普通學校に併置せる簡易商業專修學校を切り放して獨立せしめ之れに工科の二若くは三科を置き修業年限二年位の小實業學校となすべし但し入學生徒は日鮮人共に之れを許すか或は亦鮮人子弟のみに留むるかは未定なるが經費は寄附額六萬圓の利息國庫及び地方費の補助並に府費の若干を以て之れに充て年額六七千圓內外ならん亦校舍は當分新營せず某私立學校々舍を買收し相當修理を行ひ充當すべしと也（南浦）

海州信用組合

海州地方の產業の發達經濟の進步に必要なる資金の融通を圖り勤儉貯蓄の美風を涵養するの目的を以て有限責任の信用組合組織の計畫目下海州方面の有力者間に行はれ其內容の主要點は

海州邑を以て範圍とし組合の存立期限は大正十年十月迄とし出資の方法は一口の金額を二十圓とし毎月一圓宛を二十箇月に拂込み出資せる組合員には出資總額と同額とし其額に達する迄は[illegible]剩餘利益金の二十分の一宛積立つるものとす剩餘金中より前條の積立金及び組合員へ配當金を控除し尙殘餘ある時は其の一部を特別積立金とし之を積立つ組合には組合長一名理事一名監事三名以上を設く出資金は組合員の申立により貸付をなす其貸付は個員（一）商業に必要なる資金（二）農工業に必要なる少額資金（三）組合員の非同業に係る資金（四）其他第一條の目的に充つる資金たるべく貸付期間は三箇月以內とす但し正當なる理由ある場合に限り[illegible]

仁川

▲輸移出超過　仁川港に於ける貿易は常に輸移入超過を示し居りしが一月分に於ても依然此狀態を脱する能はざる狀況にあり然れども貿易上の均衡は漸次好調を辿り遂に十二月中に於ける狀況は輸移出百十五萬八千餘圓輸移入百十五萬五千餘圓を示し輸移出は輸移入を超過すること約三千圓に達せり是れ當港貿易上未曾有の現象といはざるべからざるなり而して此現象は輸移入の減少に依るが如き消極的原因にあらざるなり今試に輸移入額百十五萬五千餘圓を前年同期に比すれば二十三萬餘圓の增加にして更に前月に比する二十二萬餘圓の增加を見たり此理由は全く米大豆の如き輸移出重要品の旺盛を極めたる結果にして當港貿易上の新記錄といはざるべからざる也

群山

▲學校組合會　群山學校組合にては十八日午後六時より府廳樓上に組合長天野府尹以下議員出席會議を開き一、群山公立尋常高等小學校分教室設置の件、二、同補習科女子部廢止の件、三、同補習科に關する件、四、幼稚園規則に關する件、五、實科女學校學則に關する件等に關し凝議する處ありたるが全部了するに至らず翌十九日午前十時より引續き會議を開き各議案は大體原案通り協議確定したり

▲停滯米減少　一月以來米價軟弱の爲め輿論よりの廻著米は頓に減少しつゝありしが之より先米價の好氣に連れ既に廻著せる群山在米は一時二十萬叺と稱せられしも最近廻著米の依然杜絕の狀態にあるの一方滯米の續々輸移出せられたるを以て昨今群山の停滯米は十四五萬叺に減少したるもの丶如し

木浦

▲府協議會　木浦府協議會は十八日午後一時より府廳樓上に開催木村及金、要の三協議員は旅行中にて缺席福田藤森高根の四氏出席府財政狀況並に大正五年度豫算編成に就て內協議ありたり

▲組合記念事業　木浦學校組合にては既報の如く御大典記念事業として小學校に手工科特別室を建設する事を議決したるが右は現構內裁縫室に隣りて約廿六坪の家屋を新築するものにして直に公入札の上工事に著手する由落成の上は御大典記念手工科特別室として永久に實科の教授室に充つべく用具は福田有造氏の指定寄附に成れる金百圓を以て購入すべしと

▲寄月船舶出入　當稅關調査に依れば當港に於ける一月中の出入船舶は出港汽船一四〇隻五、九七六噸日本形帆船五二隻七六〇噸入港汽船一三九隻五、八七四噸帆船九五隻七八二噸なりと

▲柴崎中學校長來木　京城中學校長柴崎鐵吉氏は學事視察の爲め十七日夜來木學校其他を視察せり

忠州

▲尙武會　在鄕軍人忠州分會々長奧小金吾副會長原口一二氏等發起の下に尙武會を組織し擊劍柔道等武術の鍛練と精神の修養を目的とし每夜憲兵分隊道場にてエイヤッの氣合勇ましく新井田四郎氏宅に寓居せる田島某を師範として熱心に練習中なり、同會は會員組織にして創立日淺く諸般の設備未だ完成せず會則草案中にして近日の中に發會式を擧行すべく入會希望者は在鄕軍人忠州分會副會長原口一二氏に申込むべしと

▲忠提道路視察　忠淸北道三宅書記富田技手は忠州堤川間道路工事視察の爲め來忠三宅書記は十六日歸廳したるが富田技手は市區改正殘務整理につき二日滯在し十八日歸廳せり

▲郡守出張　徐忠州郡守は鈴木道長官夫人の訃に接し忠州官民を代表して弔詞を呈すべく十七日急遽淸州に出張せり

大邱

▲兵營敷地買收開始　十九日大邱府廳樓上に兵營期成會幹事會を開き聯隊敷地買收及び寄附金受納に就き附議したるが當任幹事に伊藤吉三郎氏を推薦し買收委員に三ケ尻忠吾氏外一名を推し寄附金受納は來る二十三日より敷地買收は十九日より開始し著々急速に其の歩を進むべしと

▲小學校卒業生方針　來る三月大邱小學校を卒業すべき生徒人員は高等科卒業男生三十七名女生二十三名にして尋常科卒業男生五十五名女生五十九名なるが之等卒業生及び進級生中より尙ほ進んで中學程度の學校に入學希望の者約百二十餘名にして內卒業生より中學行二十四五名商業學校工業學校三四名補習科より高等女學校希望者六名同高等科より二名及び高等科一年より二年に進級する者四十七名中二十名は高等女學校希望其他尋常科より高等女學校希望者三十名あり

▲高女校敷地寄附金　大典記念大邱高等女學校敷地買收寄附金既納者氏名及び金額二月二日以降の分は如左

[illegible]

△通計金五千七百九十圓二十錢也

▲橘川局長出張　大邱郵便局長橘川克彦氏は大邱安東間通信事務視察の爲め一週間の豫定にて近日出張すべし

▲木村道書記出京　慶北道書記木村靜雄氏は各道土木主任會議に列席の爲十九日出京せり

▲岡第一課長轉任　大邱監獄第一課長岡友道氏は今回西大門監獄へ轉勤を命ぜられ十七日大和に於て有志の送別會あり十九日出發赴任

永川

▲翠湖繩叺製造開始　永川郡翠湖學校組合員は今回愈々製繩機十臺叺機器械五臺を調達し十五日より是が製造に著手せしが近々更に製叺機五臺を增加し盛んに是が奬勵に努む可き方針なりと

義城

▲陸地棉種子採收　四年度に於ける義城陸地棉發芽反別は百十九町二反歩にして實棉收穫最七萬二千四百六十二斤なるが自家用の種子採收額は一萬六千三百六十五斤其他一月以降採種見込高は五千五百三十九斤合計二萬三千九百四斤內組合直營採收二千斤は五年度の採種足面不に分配の計畫なりと

慶山

▲育兒教育文庫　過般創設せし慶山郡慶山小學校大典記念育兒文庫は頗る在留民の歡迎を得就中婦人の閱讀者多く頗る有望なりと

▲慶山俳句會設立　慶山にては同好者相圖り慶山俳句會なるものを組織し每月一囘例會を開く事にせり

論山彌勒寺より　大塊

世に稀有此の昔隆あり高麗の花

過去高麗今は秋津の彌勒樣

釜山

▲水産總代會　二月十五日より五日間釜山本部に開會せし朝鮮水産組合總代會は全部の議案を議了して十九日閉會せり

▲兩記者送別盛宴　久納重吉、尾島靜雄の兩氏轉任に付き釜山記者團及び俳句會發起の下に十九日午後六時より守谷樓上に送別會を開催せり參會者は橋本署長岡村鐵道局參事を始め七十餘名各自獨得の俳句及び短歌を以て兩君を送れり

大連油脂工業會社 其の公募株百十倍以上

大連中央試驗所の發明によりて此次大豆硬化油は蠟燭となり石鹼原料となり又牛脂の如く食品にも供せらるゝものにて用途多方面なるが其の油脂工業株式會社創立のこと決定し滿洲內に限り一部の株公募をなすや初日以來申込み非常に多く正金、鮮銀、正隆、大連の各銀行を通じて最終日たる十五日午後迄に大連のみにても三十三萬七千三百二十九株に達し所定公募株に對し

▲實に百十一倍の大超過を示し之れに沿線に於ける上記各銀行支店又は出張所よりの申込を合する時は百二十倍以上となるべく實に空前の大盛況を呈せり內地のグリスリン會社募株七十三倍の如きは之れに比すれば殆んど話にならぬ始末なり會社設立期は未だ確定せざるも株式割當をなし其の決定通知後第一期拂込をなさしめ若干期間を置きて

▲創立總會を開く筈にて其の期日は四月二十日頃ならんと云へば事業開始期は早くとも十月頃なるべく機械類の如きは既に沙河口滿鐵工場に注文しあり而かも其作業は機械工業と異なるを以て此間小仕掛にて若干宛製造の筈なりと（大連）

人事消息

▲岡村正雄氏（鐵道局技師）廿日內地より歸任

香南雪北

昨年の暮から今年へかけての近年稀れな暖氣は遂に烈寒を齎さず最う春の陽氣は南鮮から音づれて來つゝある▲木浦馬山邊ては梅等からは花信が來る逆襲は既に蕾を破つて金色の裝ひも艶だと云ふ▲然るに咸鏡北道方面からの音信には未だ積雪皚々たりと對下の朝鮮は異に之れ香南雪北である▲此の向ならば京城附近も例年より早く花影に接する事が出來よう▲釜山の成功家の老人連は耆老會と云ふものを組織して居るが今度社會的事業として耆老閣設立の計畫がある相な▲老後の思ひ出に後世不朽の業として洵に結構千萬である▲由來老い込み安い朝鮮で釜山耆老連の活動は慥かに其の範を示すに足る其の實行こそ望ましけれ▲十六日未明釜山港口で遭難した土海丸の坐礁事件に付て鳥渡した問題が起つて居る▲坐礁の原因は船長が航路標識の變更を知らなかつたと云ふにある▲各關係者にも夫れ〳〵相當な主張はあるけれど官報に出た事を知らぬと云ふ事は餘り申譯になるまい▲航路標識に關する事は必ず官報に告示するのだから取扱者は官報に注意して居なければならぬ▲毎日々々官報を讀ぶる譯には行かぬとは自ら怠慢を示したものだ▲官報を見て居なければ知らぬが當り前である▲世間では能く官報に出て居ても知らなくて自他思はぬ損害を蒙る事が多い▲例へば惡い事をして置て法律や規則を知らなかつたと云つたつて申譯にはならぬも同樣である▲官報は其の職によつて必ず一見すべきものである▲而うせねと知らず〳〵の間に飛んでもない間違の起る事があるよ

宋尤庵　騰石 老人

相過君臣人仰風。惜哉中道遂圖忩。只餘老少分南北。八道至今猶競雄。

京城を辭すに際して　其[illegible]

切風や風の間に〳〵南す

緊急廣告

今回山口縣玖珂郡役所の囑託により朝鮮一帶の視察に赴く就ては兼て我社は大正三年以來京城に支局を設け安藤如水をして特派せしめ益々業務の發展を圖りつゝあるが創立日尙淺きにも拘らず諸君の御同情に依り近く日刊さするに當りては釜山支局を設置し朝鮮一帶の事情を內地へ紹介の爲十二日出發十三日著釜地方視察の途げ十九日京城著京城巴城舘に滯在各官衙を訪問し各地方視察紹介の目的に有之候間何卒御購讀の榮を賜り度此段紙上を以て愛讀諸君に御禮申上候　敬具

東京神田淡路町二丁目七番地 日本全國著名人物鑑發行所 帝國財界調査會長

本社山口縣玖珂郡柳井町 關西明鏡新聞社（長電十三番）

社長 岡部新五左衛門 謹告

朝鮮京城府淸進洞百十七番地 長電一九〇番 關西明鏡新聞支局

安藤和一 謹告

白檀油代用藥

ゴノサルビン

優秀卓絶 [illegible]

發賣元 大阪市外中津町 三友製藥合名會社

大阪道修町 武田長兵衛

東京市本町 小西新兵衛

文献及見本 醫家に限り進呈

新刊書御案內

書名	著者	定價
私法論文集	松本烝治	一、三〇
納税施設例彙	東京稅務所	一、五〇
貨幣論	靑木得三	一、五〇
水力發電所の設計	中村、朝倉	一、〇〇
新式飛行機の原理及模型製作法	井關十二郎	一、二〇
小學校に於ける物理教材研究並に實驗法	松田、井	一、五〇
國語教授及實際	國語研究會	五五
新撰獨逸自修文典	柏谷良澤	六〇
受驗必携數學講義	湯原	一、五〇
歷史地理試驗問題解答	中村樫小	一、六五
强肺健胃法	遠山椿吉	一、一〇
スキー術	川口、金	六五
はやり唄と小唄	藤澤衛彥	八〇
石の死活と其活用	鈴木爲次郎	一、二〇
かわかぬ袖	篠原嶺葉	八五
稻田一作	浪六	一、一〇
新譯補綴 アラビアンナイト 下卷	谷、枚	二、〇〇
獨逸怪艦 エムデンの奮戰	谷口隆之助	七五
榮西禪師	木宮	一、〇〇
蘇峰文選	德富猪一郎	三、五〇

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六番 振替京城二五七三

大邱軍威義城安東間 定期乘合郵便馬車

小荷物、物品委託 運送、代金引換

荷馬車業開始

郵便馬車 安東邑內 主任 國井定次郎

大邱營業所

大邱營業所 錦町（電話五一八番）

●月を掠めて
奉天夜間飛行の壯擧

我陸軍飛行隊耐寒試驗飛行班は十四日以來奉天を中心として遠く北七十二基米突の鐵嶺より南六十八基米突の遼陽間に亘り又は省城上空に或は大風雪を冒し或は猛寒の早朝に或は二千米突近き高空に或は百米突以下の危險なる最低空に數十回の耐寒飛行を行ひ頗る良好の成績を收め得たるを以て十八日は交通兵團長井上中將來奉と共に夜間飛行の快擧を決行したる事は既電所報の如くである。

此の夜風西北方に變り風速稍々強く寒氣は猛烈に肌にヒシ〳〵と迫つて來るのを覺えた寒暖計は地上に於て零下十八度とも十九度二分とも報せられた十四日の

■月は團々として東天に輝き 昇つて居る練兵場には井上中將、曾田大佐、上田第十七師團參謀大佐、飯島守備隊長、各守備隊將校等百數十名及び飛行六將校は、日沒後から雪の中に佇立して夜の帳の敵ひ來るを俟つて居る。場の周圍は夜間飛行の壯擧を觀んと日支の群衆が烈しき寒氣をも恐れず黑山を築いて圍繞して居る。暗は漸く雪に覆はれた練兵場の上を包んで月は積雪の上に濃く天幕と人の影とを印して來た。此時格納庫の幔幕が開かれてカーチス百馬力のモ式二十四號及び同七十五馬力のモ式二十六號の兩機は場の中央より稍南方に寄つた處へ曳き出された。練兵場の周圍に積み重ねた二十數個の目標篝火は此時點火せられて焔々と燃え上つて、激々と飛ぶ火の子は星とも化るやう、晴れたる空に無數の星斗と耀き出でた篝火の間々には作業用のアセチリン燈が青白く燃ゑて居る。寒氣は一段の烈しさを加へて

■數千の群衆は一語を發せす 夜氣肅然たる中に中澤中尉の操縱するモ式廿四號は此の靜寂を破つて爆々たる音響と共にプロペラーは烈しく雪を捲き揚て夜色朦朧たる中を北方に向つて滑走を始めたが何時しか離陸した。時に午後六時四十分續いて伊庭中尉の二十六號機も亦北方に向つて飛揚した、二機は仄かに白く月前を兩三回飛行した。此の時機上のモーターよりガソリンの燃ゆる青い火が物凄くバツ〳〵と見ゆる これは晝間には見る事の能きぬ壯觀である。軈て兩機は漸く高く小さく西北方碧暗の空に吸ひ込まれる樣に消えて入たが、靜かなる夜の空からはまたプロペラーの音幽に聞えて來た。二機の飛び去つた後は目標の篝火 徒に燃え揚るばかりであつたが、それもほんの暫く、星の疎らな東北方の空から機の響きと共に白く飛行機が其の姿を現はしたと思ふと、忽ち

■眞黑な西塔の上から 窓の輪を描いて南へ飛び更に一轉北に向つて見事に著陸したのは中澤中尉の二十四號機であつた。此の時まだ雪の中に立つて緘默を守つて居つた數千の群衆は天地も破れよとばかりに拍手し喝采した。中尉はやをら機上を降り少さな天幕の飛行班本部の中で炭火の前の土間に立つて居る井上中將に次の如き報告を爲た。

最高度は三百五十米突であります。寒さは零下二十一度が最低であります。三百米突の高處に在りて鐵道線路は極めて明瞭に分りました。市街は燦爛たる街燈の爲め極めて容易に其の位置を知る事が能きます。寒氣に對しては操縱者及び機と共に異變は有りません。

報告のまだ終らぬ内に伊庭中尉の二十六號が著陸した。同時に坂本中尉は二十四號に

■搭乘して飛揚した 伊庭中尉の報告には高度は三百六十米突。奉天省城の上空を飛行す。夜間の市街は燈火の爲め極めて明瞭で有る。又よし悉く燈を滅するとも市街は明瞭に瞰視し得るのであります。

坂本中尉の著陸と共に川上中尉、二十六號機に澤田中尉二十四號機に、岡大尉二十六號機に搭乘、交々飛行し午後八時に至りて最良の成績を以て夜間飛行は終りを告げた。明滅の篝火の背後を群衆は雪崩を打つて歸つて行く。(十九日午前二時特派員發)

▲黑く橫つた兵營
市街の美觀=飛行後の感想

夜間だからつて別に異つた事は無いたゞ著陸の際晝間と異つて一寸手心に注意を要する。少くも特別の注意を要する樣な心持のするのは矢張り梟ならぬ限り眼が利かぬ爲で有らう。天上から奉天市街を見る

■壯觀は又格別 のものだね不夜城の景と云ふ言葉を實物にして見たのは今夜が始めてだ。滿地のイルミネーションは天上の星を一所に集めてもこれより美しい事は有るまいと思つた。所澤では折々夜間飛行を行ふので、二千米突近くまで上ると遙かに東京が見ゆるが、遠いからたゞ明るい一面の靄に包まれて火光體が有る樣にしか見えないが、今夜のは實によく見えた支那の兵營は此の明いイルミネーションの中で

■一番暗く黑い 一廓であつたからよく分つた。戰時に於ける夜間飛行は偵察よりは專ら爆彈投下の爲めに用ひられる。市街とか城塞は戰時に於て假令燈火を滅して居つても上空から見ればよく分る。殊に市街の上には烈風の夜でない限りは一種の瓦斯が懸つて居るので直ぐに分る、夜間飛行の際には高度計寒暖速度計ガソリンメートル等の器械は懷中電燈を使用して覗るので有る

▲雪空高く
悠々戰跡訪問 空中が暖かい

十七日。雪模樣。氣溫、地上零下九度。風速地上六米突を示した。頭の上でプロペラの響がしたので起きて見ると六時二十五分——もう飛行機が飛んで居つた。滿洲の雪を催した空ほど陰森として物寂しい景趣は有るまいと思ふ。物の凡ては悉く

▽灰色の畵板へ 木炭で描かれた樣で少しも生氣を以つて居らぬ。今にも大吹雪が襲つて來さうで有る。空には小鳥の影さへ見えぬ。七時五十分北方遙かに飛び去つた二十四號と十六號は有らゆる者の瞀をひそめて死んだ樣な此の朝の空を我物顔に悠々と翔けつて歸つて來た。空は

▽俄かに甦つた 樣に、快よきプロペラの響が朝の心に流れて來る。『大變に今朝は早いですナ』と云ふと、『左樣、早ければ寒氣が烈しいだらうと思つて——』、と川上中尉が十六號機から降りて來る。『空は寒いですか』『否や些つとも、今日は上の方が風もなし暖かな模樣です』。午前九時、岡大尉は

▽百馬力のモ式 二十四號機に搭乘し、暫時奉天省城の上空を飛んで居つた。二十四號機は十六號機と異つて、發動機の馬力が強大である爲めにプロペラの音響は大したものである。恰度正月の十五日で支那人の群衆が道路と云はず野原と云はず

▽屋根棟の上に まで充滿して居つた。此の時、岡大尉の搭乘する二十四號機は空中三百米突の高處に於て俄にプロペラの回轉が止つたと見る間に機首は下方に著しく傾斜して來たやと思ふ隙もなく、急轉直下眞に之れ投矢の如く地上に落ちかゝつた。地上に充滿した

▽日支の觀覽者 は手に汗を握つて大尉の運命を氣遣つた。それも一刹那。機は約百五十米突を落ちた處より、再びプロペラの音勇ましく東方遙かに飛び去つた此れ岡大尉が前日も行つた逆落しの秘術で有つて見て居る者に隨分肝を寒からめしる。十六號機は九時三十分より伊庭中尉操縱曾田飛行班長搭乘渾河方面より遙かに

▽李官堡の空に 飛揚し、日露の戰跡を弔つた李官堡は奉天戰の三月九日名古屋三十三聯隊全滅し吉岡聯隊長が軍刀を揮つて敵の七騎を斬り落したる後勇敢なる戰死を遂げた處である。吉岡中佐の戰死の狀況は滿洲軍總指令部より具さに寶邊に奏上し且つ全軍に布告せられたのである。十六號機は十時五分に歸著した。

▽曾田大佐曰く 『吉岡中佐の戰死した處は家が二三軒ある極めて寒村である。あんな陰蔽物の無い處で敵の十字火を浴びた日にはとても堪つたものではない、我飛行機が空中から其の英靈を弔つた時中佐の靈も莞爾として會心の笑みを洩した事で有らう。氣溫は五百米突の處で零下四度であつたが降りて來て見ると下の方が零下八度三分であつたのは非常に驚いた。地上よりも空の方が暖いこれでは寒中は飛行に限ると云ふ樣な事になるが、これは極めて

▽稀に見る處 の現象で有つて、多分地上には氷が有るし風も強いので空中よりも却つて寒冷となる樣な事になつたであらう

●英國倫敦では 水が禁物

昨年六月米國を經て歐洲に赴き各國の視察を了へ十八日鴨山丸にて歸朝せる久原鑛業會社の根岸眞三郎氏曰く倫敦滯在中數回獨逸飛行機の襲來に際せしを見たるが何れの場合も五千尺以上の高空より爆彈を投下せり防禦隊にては始め敵影を認むるや閃光器により其位置を確めて發砲し居れるも其大砲は或る一定距離に彈丸が達すると同時に破裂する裝置なるよ敵機は防禦隊にて發砲せしと知るや直に其彈著距離以上に高昇する爲め容易に的中する事なし又これが爲め途中にて彈丸が破裂し却て味方を傷くる事あり水が飛行家の目的として有効なる事は敵ふ可からざる事實なれば倫敦市中にてはこれに深く留意して各公園は勿論バツキンカ氏の禁苑の池水は總て乾燥されて魚類は一部に金網を張りて飼育しつゝあり(大阪支局)

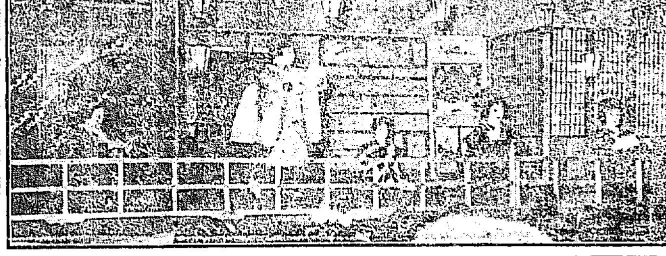
●眞劍になつた俳優
=丸髷會の成功=

メイユウ揃ひ丸髷會は愈々十九日から蓋を開けました、狂言の選び方が要領を得てゐて當初徹尾

見物席の兩券藝妓

▽時代物 又は時代がかつたものを揃へ生世話物は一幕も交へなかつたことは此の芝居として非常な成功でした、衣裳は全部新らしいものばかりだといふ丈、見た眼は頗る綺麗なものでした素人芝居によくある事ですが見物の

▽彌次は 隨分盛んなもので大垣老人なぞは彌次の隊長といふ格でした、餘り彌次がお烈しいため役者の中には動もすれば笑ひ出さうとする者があり笑ひ出した者もありましたが



丸髷會慈善劇舞臺面

これは甚だ不心得な事です、僕は元來辛棒強い方ではないのですが幕の明いてる間は孤鼠々々と逃げ出したのは自分ながら

▽不心得 な事だと思つて居ります、しかし役者は皆一生懸命でした、本當に一生懸命でした、自分自分の持役を手一杯に扱かつて行つた努力は大したものでしたらう、こんな芝居になつてくるとどんなのが好いのか惡いのか僕には殆んど見當がつきませんが

▽鳥打帽 目深に冠つて入込みの中に居た立花家や小宮次官などが『豆久家は中々頗るな自然遊藝は達者だよ』などと囁き合つてゐたのをみると或は此の連中が贔屓にしてゐるのかも知れません、僕としては巨大根、小大根、いづれもいゝ出來で、藤間の格場が今年は下がるだらうと思つた以外には何もありません

▽迂濶り 背い事を言はふものなら今の調子では一同から袋叩きでもつけられさうですから卑怯な樣だが避けて置きます、鐵ヶ嶽の謙信だの三人侍だの大分いゝのがあるので恐しいのです(太郎法師)

●爆彈で城を燒くのか
支那人の飛行演習に對する感想

飛行機に對する支那側の噂は却々盛んで有つて愈々日本は支那の國を潰しに來たのに相違ない兵隊が有つても大砲が有つても飛行機で破裂彈を投げ落された日には奉天位は見て居る隙に燃えて終ふは當然である、さうなればモウ戰爭をする前に支那は

◇潰れて終ふ と杞憂する者が頗る多いとの事である。また袁政府を快く思はざる某支那官廳の一吏員なぞは頻りにあの飛行機に乘せて北京まで連れて行つて呉れたら自分は袁の頭上に爆彈を投下してやるのにと云つて居つたさうである。上流社會は驚異しながらも

◇口に出して は騷がないが、中流以下の支那人は非常に恐怖の念に打たれ、萬一日本と戰爭でも爲た日にはどんな事に成るであらうと一般に心配して居る事は事實である。第一日本人は

◇夏でも氷を 凝らせる事を知つて居るではないか。それを何にもわざ〳〵奉天省城外まで寒さの試驗に來る筈は無い之れを見ても其の云ふ處は僞りで有つて我々の頭上には何時爆彈が投下せらるゝか分らないと。

●紙幣を頭に隱す

京城北米倉町六十九番地鮮妓金牧丹(十八)は本月十四日夜十時頃登樓したる遊客南米倉町生魚商吉川某が遊興費を支拂ふ際過つて室内に遺失したる現金二十一圓を窃取し内十圓紙幣一枚及び一圓紙幣一枚は自己の髮の中に隱し持ち殘り十圓紙幣一枚は附近の金奐澤(二九)の許に持ち行きて預け置きたることを本町署の巡査に發見され兩名共檢事局へ送られたり

●置炬燵より發火

二十日午前零時五分頃京城東崇洞なる工業傳習所官舍清水某方置炬燵より發火し掛蒲團より襖障子に燃え移り天井の一部を燒燬したる際同所夜警番發見して消止めたり

●溝の中に屍體

龍山岡崎町六十九番地大三商會工場前の下水溝内に生後約三週間位を經過せる鮮人女兒の屍體を遺棄しあるを發見し龍山分隊より係員出張檢視したるに死後投棄したるものと判明したり

●雇人の窃盜

仁川生れ京城南山町居鄭成完(三十)は三越呉服店合宿所の炊事夫として村田某女方に雇はれをる中本年一月以降同家の木炭外二點を窃取したる爲め鍾路警察署に引致さる

●又炬燵から

十九日午後七時十五分頃京城明治町一丁目七番地西田某女方にては炬燵をなしたる儘入浴したる間に蒲團に燃え移りあはや大事に及ばんとせるを附近の者發見消防隊出動直ちに消止む

●朝鮮觀光團組織

別府溫泉に靜養中なりし向井平壤覆審法院檢事長は此程釜山通過歸任せるが同氏の談によれば同地浴客中にて朝鮮觀光團を組織し多分三月上旬來鮮する由(釜山支局)

●屠牛で三萬圓

▲平南の地方[illegible]

[illegible]中に於ける牛肉の價の如き供給夥多て微減する然るに昨年四月から本年三月に至る大正四年度の牛[illegible]乃ち既に約七千七百四十六圓の收入を得てゐる[illegible]除金として大正五年度に繰越さる、[illegible]一つ屠牛の増加に[illegible]の影響を蒙り戰役前に比し半値とな[illegible]

[illegible]時頃京城樓上洞仁旺山麓に縊死者ありとの急報に接し所轄鍾路警察署より[illegible]

[illegible]頃通義洞の造花業[illegible]八日[illegible]中附近の某鮮女を[illegible]本年一月十[illegible]て田舍の地方に隨意寺を[illegible]

天氣 ▲晴れ一時曇 二月廿一日(廿一日午後六時發 廿二日午後六時迄)

〇日出 午前七時十八分 〇日沒 午後六時十八分

■三月號 一流演者顔揃ひの
講談雜誌
淺野內匠頭 切腹(長講)……桃川如燕
口繪 浮いて鷗の(清方畫)……一龍齋貞山
大岡政談 鯨裁判……
愛宕山(落語)……朝寢坊むらく
河內山 丑松の姑殺し……錦城齋典山
○八百甚(落語)……三遊亭小圓朝
永井源三郎 反れ矢問答……猫遊軒伯知
安政三組盃 大團圓(長講)……
調合講釋(落語)……柳家小せん
河原撫子……大島伯鶴
浮世悲談 破傘蘿夜話……
枯薄積怨路……
雜錄 寄席雜記・故桃川燕・越山の論・小ばなし
小栗勇士 怪物退治(長講)……早川貞水
定價一冊二十錢 郵稅五厘
東京本町 博文館

板硝子直輸入商
釜山本町一丁目 (上)村上商店
電話百十九番 振替京城一四五番
●相場表御一報次第贈呈仕候

●一家の安全を欲する者は冬季に際し
アルボース の使用を日日怠る勿れ

株式會社 朝鮮商業銀行
資本金五拾七萬五千圓(全部拂込濟)
諸積立金廿二萬五千貳百圓
京城南大門通一丁目 電話五五八番 振替京城一六八三四番
一般銀行業 倉庫業
銀行長 趙鎭泰 支配人 豊田明敬
南大門支店 仁川支店 本町支店 平澤支店

水原停車場前
優良種子 純正苗木 販賣 營業案內進呈
富國園 主任 農學士 北澤小八郎

文學士 寺田精一先生監修
三月號 トモダチ
●幼ないお子供のトモダチとして大好評の繪雜誌
(附錄)組立本箱と本八冊(手工)
每月一回一日發行 定價一冊十錢 郵稅五厘
發行所 二葉社 東京市麹町富士見町一丁目 電話番町四〇五八 振替東京三一三六三番

蘇つた龍山市街（六）

將來を見越し機敏なる計畫

『米價の空になる時や夫婦喧嘩が起る』と下世話によく云はれる如く不景氣だと閑なもんだから種々な紛紜が起る。從來新舊龍山の關係でも恰度それであつた何か事のある度に所謂蝸牛角上の爭をして居た所が此頃の樣に景氣付いて來てからはそんな下らない小問題を念頭に置く樣な暇はなく只だ〳〵龍山の發展のため兩々相提携して行かうと云ふことになつて來たのは嬉しいことである。斯くてこそ眞の發達と進歩も出來るのであつて我利々々亡者の榮えた試がない。

▽借地と借家

新舊龍山を較べて見ると却々面白い研究が出來る。新龍山は電車通の兩側全體（龍山驛前に一部鍋島侯の所有地あり）は軍用地に非ざれば鐵道用地で民有地はない何れも

■一坪四錢より 一錢位の借地料を拂つて家を建て居るので借家人にあらざれば借地人である從つて落著いた氣分がなく『何時立退を命せられ候とも決して異存御座なく候』の一札を入れた弱身にはバラック式な腰掛的なそして出稼人的な氣分があつたそれだから商賣もうどん屋、玩具店、雜貨屋と云つた樣な今と云つて今でも立退かれる

■簡單な商賣が 多かつた商賣の繁昌しない證據には龍山局の前に數年前百三十銀行の支店を設けてあつたのも閉店し之れと對抗して開店しようとした十八銀行の支店も中止になり新龍山には一つの金融機關も無い有樣である

▽堅實な氣風

これに引換へ舊龍山は古河に水絶えずの比喩で市街全部が民有地而かも多數の人々の所有して居る土地であるからして元町一丁目邊などの町並は植民地的の氣風は何處にもなく軒を接した數十戸の商店も可なり

■落著た風が 見える建物も亦永久的なものが多くバラック式な掘立小屋は餘り見當らぬ金融機關としては十八銀行の出張所が設けられて居り京城府の出張所もあれば彌生町の花街もある小林、龜割、藤田の樣な有力な

■請負業者も 住んで居る印刷局發電所もあつて何んとなく街の隅々迄古びた所のあるのは誰が見ても判かる事實である一事が萬事で住民の氣質も違つて居たものである

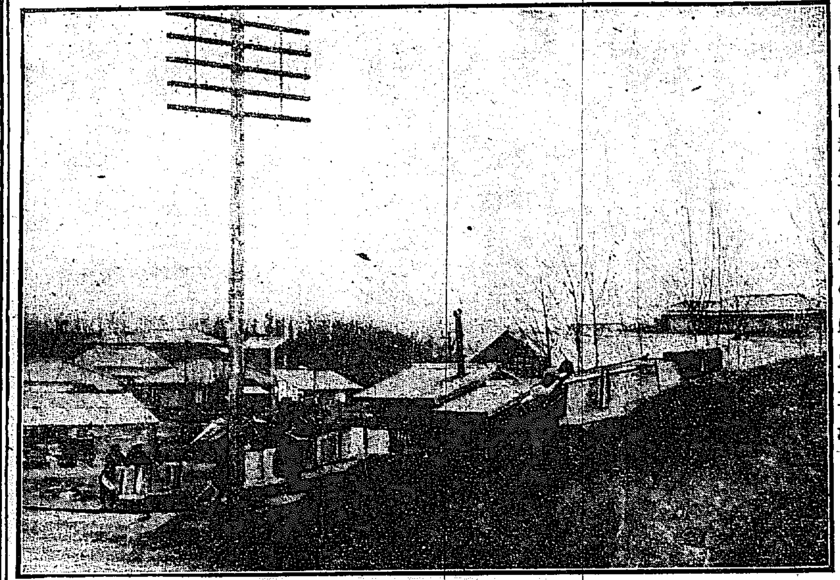
▽兩々相進む

此樣に一寸列記して見た丈でも新舊龍山では大分違ふ併し今後は此の二つのものが合して一丸となり發達して行かうと云ふのであるからして將來は

■洋々たる希望 が輝いて居る、現に昨年から著手した軍隊の官舍七十戸の建築工事のため多數の大工、石工、左官、人夫等が入込んで新龍山三角地附近だけでも約十七戸からの飲食店が殖えたと云ふことである、そして殆ど軒別に

■空家であつた ものも二日に一軒十日に三軒と人が住むとになつて來たそして昨年末からは三角地附近の商人五十餘名が申合せて新龍山信用組合を設け石原磯次郎氏を理事として一株二十圓の出金（一人四株持ちの割）をなし目下二千圓程の融通資金を作り對人信用で以て銀行利子より少し高い位の利率で

■資金を融通し て居る之も亦景氣づいた一證で機敏な商人が長足の發達を見越した下準備であらう



龍山新軍用地の地均工事

ナイルス氏の大飛行中止

▼答禮の爲め八日市を訪ふ

ナイルス氏の鳴尾東京間の大飛行は都合に依り急に中止の止むなきに至りたるがナ氏は剪風號借受の答禮のため二十日熊木少尉同樂の上鳴尾より八日市に向ひ同地飛行場に於て二十一、二十二の三日間自由飛行を爲し若し能ふべくば同機にて宙返りを遣らんとの心算なるが八日市にてはナ氏大歡迎會を催すべく目下準備中にてナ氏には記念として黄金作りの日本古刀一振を贈呈する筈

ビスケット、パンや干菓子は木村屋の品に限ると人は云ふなり（京城明治町、電話二八七〇番）

▲餘興の宙返飛行 十八日臺灣共進會の代表者はナイルス氏のマネジー、フリドマン氏を大阪ホテルに訪ひ來る四月十日より開會せらるべき同共進會の餘興として宙返飛行を試みんことを交渉なす所あり大體に於てはナ氏も承諾し居れるもの如くフリドマン氏は十八日夜東上し十九日共進會側中村委員と會見し愈々最後の決定と共に契約書に署名なす筈なりと（大阪）

日本生命保險株式會社

一資本金壹百五拾萬圓
一責任準備金貳千四百四拾萬參千參百四拾七圓拾貳錢（純保險料式）
一其他準備金五百參萬七千參拾五圓
一保險契約高壹億四千參百貳拾四萬四千七百四拾參圓
一開業以來死亡支拂保險金壹千貳百七拾五萬七千四百四拾參圓
一開業以來滿期支拂保險金壹百拾六萬七千參百六拾參圓

自大正四年壹月壹日至同年拾貳月參拾壹日 決算報告

貸借對照表

資産	
現金	四〇三.〇八五
郵便振替貯金	五三、三五三.三五二
銀行預金	三、四〇七、九四〇.三二〇
貸付金	三、九七一、三五〇.一九五
有價證券	三、九六八、九九〇.九二三
不動産	一、〇二九、九五〇.〇〇〇
什器	二、六五〇.六〇九
未收保險料	六五一、六六八.一二三
代理店貸	三四、五八四.四二九
假拂金	一、六四三.〇八五
北陸支店新築費	三、三九九.一七〇
合計	三三、二五四、八〇四.二六八

負債	
株金	一、五〇〇、〇〇〇.〇〇〇
法定準備金	一五〇、〇〇〇.〇〇〇
別段積立金	二、二三〇、〇〇〇.〇〇〇
責任準備金	二四、四〇三、三四七.一二〇
支拂備金	六九、二六九.四〇五
役員恩給基金	三六、二一五.七〇〇
未支拂株主配當金	三.七七〇
別段預り金	四、七一八.九三三
役員身元保證預金	三、四〇二.九六〇
保險契約者配當預り金	四八〇.四六〇
假預り金	七、八一五.六五四
利益金	二、四二〇、六五〇.三〇七
合計	三三、二五四、八〇四.二六八

損益計算書

收入	
前年度ヨリ繰越金	三、九二七、四九二.三五一
保險料	五、四〇九、一六九.九七四
保險契約ニ關スル雜收入	九六六.〇五五
諸利息	一、八七六、三三八.二七六
財産賣却益	一〇四、六九〇.五〇〇
財産償還益	三、九一四.〇〇〇
手數料及雜益	一、三〇二.九八五
合計	一一、三二三、八〇三.七三六

支出	
死亡支拂保險金	一、四九〇、〇三二.〇〇〇
滿期支拂保險金	[illegible]
[illegible]返戻金	[illegible]
諸返戻金	[illegible]
支拂利息	[illegible]
税金	[illegible]
事業費	[illegible]
財産評價損	[illegible]
次年度繰越責任準備金	[illegible]
支拂備金	[illegible]
合計	[illegible]
差引利益金	二、四二〇、六五〇.三〇七

利益金處分

利益金	二、四二〇、六五〇.三〇七
之ヲ處分スルコト左ノ如シ	
法定準備金	八〇、〇〇〇.〇〇〇
株主配當金（年壹割五分 舊株ニ付金參圓七拾五錢 新株ニ付金參圓）	一九五、〇〇〇.〇〇〇
別段積立金	五〇〇、〇〇〇.〇〇〇
次年度ヘ繰越	一、六四五、六五〇.三〇七

右之通候也

大正五年貳月拾八日

大阪市東區今橋四丁目七番地

日本生命保險株式會社

取締役社長 片岡直温
取締役 土居通夫
取締役 越野嘉助
取締役 弘世助太郎
取締役 橋本重幸
監査役 坂野兼通
監査役 瀨尾喜兵衞
監査役 肥塚源次郎

追テ今回監査役改選ノ結果瀨尾喜兵衞ノ兩氏重任外ニ補缺トシテ新ニ肥塚源次郎氏就任セラレタリ

胃病新藥 マーゲンノ 賣藥法認許

特約店 京城南大門通二 新井藥房

大阪本町五丁目上 田畑保藥房

今朝 仁丹 召上りましたか

消化と毒けし

金言 事業は人世の鹽なり（美國俚諺）

仁丹召上つてイツモ爽快！

宮内省御 皇后宮職用 各宮家品

外に活動の紳士ほど クレームレートを盛に召される

肌理を細かに色艶を添へ何時も地肌の荒を防ぐ

内にお仕事の御婦人も昨今クレームレート許りは離されぬ見馴た御自身には知れなくても他人の目には歴々判る寒さの爲の肌の荒を自然に防ぐ本品の特効

東京・平尾贊平・大阪

空前の大好評を博せる本書の特色

紳士、紳商、官公吏、學者、銀行員、會社員、其他各種勤人向の住宅、隱居所、別莊、別宅、貸家等は如何に圖案し之を建築すべきや。門、玄關、入口、應接室、客間、居間、書齋、圖書室、子女勉強室、茶の間、書生部屋、女中部屋、臺所、土藏、便所、湯殿、物置等は如何に考案之を配置すべきや。本書を一覽せば何人にても直に知得し自由に取捨選擇應用し得らるべし。

天覽 台覽 賜

時代の要求 ◎十坪より百坪に至る、有ゆる階級に適應せる日本式住宅の外形と間取圖を示し、其概算建築費を掲げ、且つ各室配置方を説明したる、現代最も多大の要求せる實際に應用さるべき、我邦建築界に於ける實用的圖案にして斯界稀なる良著也。◎專門家と素人とを問はず、一見何人にも撰擇應用自由自在、即時理想的住宅を建築し得らるゝ、斯界唯一の便利なる圖集にして、現代の要求に應ずる新著也。

住宅 日本趣味の住宅を建築せんとする各位の頗る重寶なる圖面集

第六版（發賣）

東京帝國大學工科大學教授 工學博士 伊東忠太先生校閲及序

宮内省内匠寮奉職 金子清吉先生著（製本出來）

日本住宅建築圖案百種

（大版印刷全一册金線美製本）（銅版彫刻細密正面圖及間取圖百枚）（説明及概算建築費百枚）（卷末雜作圖案二十枚）

特價 三千部限り金三圓五十錢及び（内地送料金廿四錢滿韓臺樺四十五錢歐米各國二圓）（正價金五圓）＝（注意）（部數盡くる時は直に正價に復す）

内容一斑
（一）本書は。建坪十坪以上百坪に至る平家及び二階建の正面（外形）平面圖（間取）百種を二百分一の精密なる銅版とす。
（二）本書は。毎圖に適切なる説明を加へ、居住者の身分と家族の多少に應じ其間取の配置を取捨撰擇自由自在ならしむ。
（三）本書は。一坪に要する概算建築費を材料（木材）の種類により、之を甲乙丙の三種類に區別し、其金額を毎圖に明示す。
（四）本書は。卷末に雜作圖案床、棚、高欄、階段、窓、玄關、蓑股、懸魚、拳鼻、頭貫鼻、獅子口、鬼板、門、塀、敷石を掲ぐ。

住宅 發行所 東京市京橋區南槇町十三番地 建築書院（振替東京九四一八）（電話京橋四七七）

越後大評定

第百三十六席 早川貞水口演

荻田主馬の餓死

荻田主馬書面を讀み了ると、大息を吐き、頓て筆取りあへず、さら〳〵と返書を認め『主』コレ六之助之を持つて隱濱へ立歸れ最早これが主從の別れであるぞ、自分は既に覺悟を爲しが與方と二人の子供へ宛てたる手紙の內へ、我が髮の毛を二三本遺品の心に差入れて、之を六之助の手に渡す、六之助默然として何の言葉もなく右の返書を受け取りて涙ながらに其場を出立、隱濱さして立歸る、此主にして此家來あり、何れ劣らぬ忠義の侍、實に天晴なる事共なり、尤も飯田六之助は病氣の事故、毛利家に於ては道中危しと思召され、送りの者をつけ金子莫大もなく下し置かれました、毛利家の計ひと迄も行き屆いたる事で御坐います、此方は荻田主馬、何と思つたか、其以來食事をしない朝飯も夕飯も更に箸を取らぬ、永見大內藏は心配して『御加減が惡ければ、服藥なさるが宜しい、又御飯が硬いと思召すなら粥になして貰つては如何で御坐ると、種々に氣を付けますけれども只首肯のみで御坐います兩眼を閉ぢ、一言も發しない、四十餘日の絶食にして、終に荻田は長州侯の御屋敷に於て相果てました、斯る餓死を遂げたと云ふのは切腹など致しては却て毛利家へ迷惑を掛けんことを恐れ、大に心あつての事とは、後に思ひ合されました、毛利家に於ては痛く之を悼み給ひ、遺骸は手厚く菩提寺へ葬られました、後に殘りし永見大內藏今迄は誰し對手もありましたから、閑居中ながらも側には笑ふことなどもありましたが主馬相果て、後は只一人、僅覺が鬼界ヶ島へ取り殘されし心地して、右を見ても左を見ても毛利家の御家來衆ばかり、此末如何相成る事かと、日増しに心細く思つて居りまする之に引換へ小栗美作は惡運身に適ひ、其奢り夥しく、心ある者は其所業を憎まぬ者は御座いませぬ、茲に常州茨城郡水戸の城主御高三十四萬石水戸中納言光圀公、御幼名を鶴千代君と申し十六歳の時に御家督を御取り遊ばし、四代五代の將軍御後見を勤め給ひ、會津の麒麟水戸の鳳凰と申されました、會津の麒麟と申しますと奧州會津若松二十四萬石松平肥後守左中將正行公、之を御後見と申しました其水戸中納言延寶八年九月十三日の夜、秋の夜の月冴え渡り、千草に啼く虫の音が最と清らかに聞えますから、御近侍を集め、四方山の御話しを遊ばしながら御酒を召上がつて、庭前の景色を眺めて居られると、風そよ〳〵と吹き來り、何となく物凄く思はるゝ折柄、年齡四十五六の侍、色蒼白め、麻裃を著用いたし緣先きへ兩手を支き、光圀公何物なるかと思召し、光『コリヤ〳〵彼の緣先へ兩手を支き居るは何者なるか、見覺えのなきものなるが、それとも當家中の者であるか、仰せらるれるから、御近侍の方が振反へつて見ても何人も居りません、たとそよ吹く風に螢のとびから許り、恐れながら御前樣御緣先には何者も居りません 光『ナニ、汝等の目には入らぬか彼の蒼白た髭尨々として居る侍が分らぬか……ハテナ予に見ゆる許りで汝等に見えぬとは、狐狸妖怪の類であるかそれとも亦罪なくして一命を落せし者が此處へ來て予に訴ふるものか』と仰せらるゝと、パツトして其侍の姿が消えて失くなりました。

お聞きなさい

▲革命黨の金剛石● 支那革命黨が軍資金を調達せんが爲め、目下東京に持つて來て居る直徑五分の金剛石がある、此金剛石は曾て三萬圓の金で東京の質屋の庫に入つて居つた事もあるさうだ

▲觀音樣よ金返せ● 東京淺草區象潟町大熊紋藏は明治四年六百兩を淺草觀音へ貸した處が一向返してくれない代々の淺草寺住職に談判しても埒が明かないので本尊の觀音樣へ直談判と出かけ大聲に其不都合を怒鳴つてゐたのを信徒總代松崎某が聞付け元利三千圓になる處を先づ內金として千三百圓を出し觀音樣を責めてくれるなと懇願し更に五百圓を渡したが其後金の千二百圓はそれなりになつてゐるので紋藏劫を煮やし觀音樣を相手に請求の訴訟を出し來月二日公判開廷とまで運んだ

▲雨降らざる事五十年● 南米智利の硝石產地はアンデス山脈と海岸に連亘せる山脈との間にある溪谷で海拔約千八百呎の高地だが場所によつては雨の降らざる事四十七年間に及ぶといふのである從つて飲料水皆無なので遠くボリビアから運ぶのださうな同地は古へ海面であつたが大地震で陸地となり其海にあつた海產物が硝石に化したのださうな

入院隨意(診察夜九時迄)
腎臟病 膀胱病 淋病 梅毒 疳瘡 皮膚病
泌尿器病 專門
永樂町二丁目 金光教會隣り
安部醫院 電話四一九番

二月廿二日九星
舊正月十九日己丑
本命五黄 八方閉 先勝

▲五黄● 野放圖なる考の起る日 旅行て新事見合南方は吉 喧嘩なし▲六白● 經路の宿る日 轉居旅行入學名弘 金件求職梁道緣組 契約を爲す婚者吉▲七赤● 調法なる日 轉居開業除吉進で吉 女子は求慾を知られて立身を爲す 最も有望の日也▲八白● 佛心する事有日 新事手控瑕事は吉 女子は行儀を守らるべし▲九紫● 力強き日 轉居行商 金件給見棚上 求職縁談輸送藥を始る 縁萬吉▲一白● 心移りのする事有日 新事手控瑕事は吉 紹介請印等せぬがよし▲二黒● 厄介至極の事有日 新事手控瑕事は吉 一切の賭事せぬがよし▲三碧● 縮みつきに來る事有日 新事手控瑕事は吉 買物に用心せらるべし▲四綠● 片思ひの事多き日 新事手控瑕事は吉 見合生活密注意の事

演藝案內

●日本生命の成績 日本生命保險株式會社にては一八日株主總會を開き前年度事業報告、計算書並に年一割五分の利益配當案を承認可決せり同社の現在保險契約高は一億四千三百卅四萬圓責任準備金二千四百七十萬三千三百四十七圓剩餘積立金一百七十二萬圓法定積立金二十三萬五千圓にして金二百六十四萬六千六百九十四圓を次年度へ繰越せり此繰越金は每年之が消積し大正二年末より起算して五年每に大決算を行ひ其半額以上を保險契約者に分配すべしと

櫻井町 大正館 電話八七三番
二月十九日より提供の三大寫眞 ○立花貞次郎平見物(日本寫眞)○尚林下男の正體△○新派大悲活劇うらみ 全三卷四十二場 ○泰西社界劇 天網 全四卷八千尺 △佛國パテー會社最近大傑作 △伯爵家の令嬢 ...

本町 壽座 電話五七八番
新派劇 角藤派 木村清惡一行
二月十九日替狂言 德富蘆花氏の作 ほとゝぎす 全通し
破顏割引上場行次第二十錢均一 三等に限り十錢

成町 御成座 電話二一九一番
一日目替題 前狂言 本町綱五郎 全五册
切狂言 鎌倉三代記 全一場
綱五郎、三浦之助(海老松)女房、時姫(仙太郎)...
一等四十錢 二等廿五錢 三等十錢 いよ〳〵廿三日限り日延べなし

壽町 壽館 電話一〇五〇番
武藏大椽、桃松軒巴合同大一座
二月二十日の讀物 神崎與五郎東下り(浪花軒岳鳳)小栗判官(京山八千代)明治新開三人娘 戸田啓次郎(吉田一奴)都新聞連載 辨天小僧 春子、柳生十兵衞漫遊記(桃松軒巴)一休悟道錄、義士銘々傳(長講二席 武藏大椽)前日の續 一等十錢、平場五錢

黃金町四丁目 黃金館 電話二六三七
天然色活動寫眞株式會社特約 一手代理店
○二月十八日より特別大興行 ○實寫 歐洲戰亂エクレア週報 ○滑稽コイアの間違ひ △大阪朝日新聞連載小說 田口掬汀先生傑作 ○新派家庭劇 ふたおもて 全二十六場 ...
○泰西人情劇 潔き心(此子此母) 全六千呎 ...
○實錄 四谷怪談 全四卷 百五十場

明治町 浪花館 電話二六〇番
◉京山若圓 京山恭爲合同大一座 ▲三ツ瞬勇士譽(京山爲春)▲右衞門(岡田八千代)▲石井常右衞門(京山若春)▲平井權八(京山若圓)▲義烈百傑 出若一書生お富、紙幣贋造 刑事小川 天郞(長講一席 京山恭爲)
◉吉晴雨に不拘每夜六時より必ず開演

りん病
多年の慢性にも効驗著しき良藥あり只一劑を試よ同病者は切手三錢送れ其良藥と自宅療法の詳細を報す
消渴を自宅で秘密に治療し
◉名古屋市南かじや町 武藤龜吉

瀨戶 外科 皮膚科 醫院
旭町二丁目(舊三丁目)
醫學士 瀨戶潔
(電話二四九八番)
診察夜九時まで

數ある中をM印は特に撰ばれて最も遠くに御買上の光榮を得たる最優良品と御記臆を願ます
三田土ゴム製造合名會社製造
發賣元 大阪唐物町四 飯田商店

大邱村上町(元東洋館跡)
高等下宿 御中食所 經便御宿
備後屋

複方茄痛湯

せんきせんきやく腰痛の良藥
定價 六錢 十八錢 四十錢
大阪市西區新町三丁目
本舖 田知本和三郎

正月の胃

雜煮餅の喰ひ過、屠蘇の二日醉、燈へず胃を惡くして、胸やけ、げつぷ、胸痛抔と、正月早々から縁起でも無い、まして一年の計は元日にありと言ふて、元日には一年中の事を考へて何事も善き方に進まねばならぬ筈なるに人間の身體の中でも第一必要なる胃を惡くしてはならぬ、コンナ時には茲に向き信用のある、五大軍醫の合議製劑胃活を、直ぐ召し上れ、グツト胸が空ひて、氣が清々する。
定價 (胃活 壹圓、大瓶 五十錢、中瓶 三十錢)
發賣 全國及海外要所の各藥店にあり
本舖 東京日本橋本銀町 山田安民藥房
大阪南久寶寺町二 山田安民藥房

會員大募集
壹ヶ年卒業
實業講習錄
自宅獨習
總裁 大隈伯
副總裁 澁澤男
顧問 文部大臣 高田早苗 前農相 山本達雄 法學博士 新渡戶稻造 慶應塾 鎌田榮吉
顧問 商業會議所會頭 中野武營 日本郵船社長 近藤廉平 前三菱會社 豐川良平
贊助員 男爵 大倉喜八郎 前大藏大臣 坂谷芳郎 日本銀行總裁 三島彌太郎 安田家顧問 安田善次郎 男爵 森村市左衞門
科目 實業上に必要なる中學科目悉く網羅す
講義 當世一流の講師親切平易に說明す
會費 一ヶ月五十錢六ヶ月二圓八十錢
實業之日本社 見本無代進呈
東京市京橋區南紺屋町十二 帝國實業講習會 電話京橋八七番 振替東京四〇六

直線 製線 蚊帳 各種

輸出向 內地向 各種蚊帳荷捌謹告
一、弊店工場撰製仕立蚊帳は染色品質裁縫共に堅牢優美にして廉價なるは凡て他品を優越す
一、蚊帳御買求の方は是非蝸牛印に御注意の上御試買あらん事を
大阪絹業株式會社製品特約店 蝸牛印製綿蚊帳發賣元
山本佐七商店
大阪市東區安土町三丁目 電話本局三千〇八十二番 振替口座大阪九九一五番
山佐製綿蚊帳工場 堺市住吉(電話三十五番)
◎山佐商報 每月一回發行
◎大正五年度蚊帳定價表
右御申越次第進呈

古人の垂範は現代の鑑戒
蘇峰學人解題 市川鶴鳴原著
帝範臣軌國字解
三六版總クロース上製サツク附 金五拾錢 郵稅六錢
曩に本社が成簣堂叢書第七篇として、我國梭勘學の泰斗狩谷棭齋手校の帝範臣軌を出すや、甚大なる天下同好者の歡迎を受け、忽ちにして品切となり、已むなく江湖の需に應ずる能はざりしが、今回德川寬政時代經學の大家市川鶴鳴著の『帝範臣軌國字解』を刊行して、世間學者の希望を充すこととなれり。
抑も帝範は唐太宗貞觀二十二年、帝親ら撰して太子に貺へ、以て帝王の儀範を垂示したるものにして、臣軌は則天武后垂拱元年、后自ら撰して人臣の軌法を示したるものにして、倶に是れ盛唐帝后の親製する所に係り、後世範軌と双稱して君臣鑑戒の明鏡これ爲すもの、洵に所以ある也。而して此の國字解の特色は、其の解釋、簡明、精確にして、而も要を得たるこ之を一讀すれば其人が獨自の識見を以て、其の講義を聞くが如くに在り。書中難解の文字章句は及を迎へて解く、特に卷首には深旨奧義は洞然として悟入し、眞に一唱三嘆の妙あり。特に鶴鳴の爲人を詳說して題あり、帝範臣軌の來歷と、國字解の特色と、蘇峰學人こ何人こ稱すも餘す所なし。本書は單に帝王爲政者の龜鑑たるのみならず、雖も必ず一讀す可き典籍にして、此の國字解を以て通俗國民讀本こ稱するも過當に非ず。正に是れ明窓淨几の上、第一に讀む可き良書也。
新刊發賣 取次所 京城太平通 振京三〇〇 京城日報代理部

恐るべき梅毒 痳病 絕滅 新時候の變り目は特に發病す 直試よ
新藥 梅毒 毒たやし丸

(ひろ横根下し)
梅毒多き人少量連用し居れば逆上を引下げ便秘を快通し諸毒を排除す
重病に陷らざる前に早く用ひ給へ
本舖…名古屋市廣小路 … 小林盛大堂 大阪平野町 小林大藥房 東京 … 全國藥店 …

金泉醴泉間自動車發著時間表
上り 一番 二番 / 下り 一番 二番
金泉 織居自動車支部 (乘換中) 金泉電話四八番

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽行
三河丸 二月廿一日 正午出帆
相模丸 三月三日 正午出帆
高砂丸 三月十二日 正午出帆
仁川海岸町二丁目 電話十一番 堀回漕部

大阪商船仁川出帆
○外國航路(臨時就航を除く)同航路御乘船の時は五分間前迄に運賃切符發賣仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
宮島丸 二月廿六日 午後五時
×吉辰丸 二月廿二日 出帆
天智丸 二月廿八日
○木浦、釜山、長崎行▲は鎭南浦に寄港
×天佑丸 二月廿五日 午後二時
▲城津丸 三月三日 出帆
○大連行
天佑丸 二月廿一日 正午出帆
城津丸 二月廿八日
◎木浦關門神戸大阪行
溫州丸 二月 日 後五時出
○群山、釜山、横濱行
潮州丸 二月廿八日 午後四時
×△潭州丸 二月 日 出帆
○大連直行
須磨丸 二月 日 正午出帆
×チヨイサン丸 二月廿六日
○濟津、浦潮行(元山出帆)
△大智丸 二月 日
▲臺北丸 二月廿八日 午後二時出帆
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
湖北丸 二月廿五日 午前十時
基隆丸 二月十 日 出帆
御注意 ○朝鮮鐵道及郵船線との聯絡切符發賣仕候 ○乘船客は本船出帆約一時間前迄に御乘船相成度候 ○×印は一等客御斷り△印は特等客御斷り
京城切符發賣所 仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二〇番 二五五〇番
內國通運會社支店 電話七〇八番
中國四國沿岸各港行船客に對し汽船の聯絡を以て五割引の通し切符發賣仕候

京城日報

二十一日朝刊
(夕刊と合せて八頁)

定價 本紙一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾五錢(前金に限り) 三ヶ月金壹圓九拾五錢 郵稅一ヶ月二錢增
廣告料 五號活字一行金七拾錢 特別指定は二割增 二號活字は五號活字の三行 一號活字は五號活字の六行
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 松口政太郎
京城太平通一丁目
發行所 合資會社 京城日報社
電話 編輯用 三四五 營業用 二二六 振替貯金口座京城三〇〇番

三國時代の旱魃と害蟲(上)

西郷靜夫

新羅、高勾麗、百濟を總稱して三國と云ふのであるが、朝鮮の歷史は此時代から稍や其梗概を知ることが出來るのである、そこで其農業を窺はんとするに當りては多少の資料を得ないでもない、今三國の勸農事蹟に就いて其大體を見るに、出來得る限り耕地面積を擴張して農民の移殖を圖り農業の普及及び發達に努め、殊に池濫を鑿ち又は之を改修して用水灌漑の方法を講究し、就中旱天と蟲害に對しては最も苦慮せしもの、如く、時として王は常膳を廢してまでも雨を禱り又蟲害の來襲なからんことを神に祈願しておる、想ふに此時代の農業も現今と同じく米作を以て主腦として居る樣に見える。

三國の同年代に於ける旱災と蟲害とを知るは其農業上最も興趣あるべきを信じたから、三國史記に據り百濟始祖溫祚王元年(新羅始祖四十年、高勾麗瑠璃王二年に當る)より其終末義慈王(新羅文武王三年、高勾麗寶藏王二十二年に當る)に至る六百八十年間に就て之を調べて見たが同年代にして殆んど一致したるもの、ないのは今尙朝鮮の氣象狀態が各地特殊の現象を吾人に示しつゝあるもの、通りである、即ち慶州の旱天必ずしも高勾麗の鴨緑江上若しくは百濟の京畿道廣州地方と同一ならざるは勿論である、而してこは又百濟の公州に又扶餘に遷都以來は新羅の慶州と殆んど同緯度にあるから、天災も相共に同樣に受けたもの、樣に想像せられないでもないが、是亦地勢と潮流との關係に左右せらるゝ氣象のことであるから決して同一なることはあるまい、見よ其首都の位置を、一は黃海に瀕し他は日本海に面し、則ち朝鮮東西の兩端に偏在しておるではないか、現に吾人は彼の東の旱を聞き同時に湖南の多雨を耳にするものは則ち天氣の偏重を明かにしておるものではあるまいか、又蟲害と雖も松蛅蟖の今年京畿道に現はれしもの明年は忠淸南道に其慘害を逞うするやうに、又蝗蟲の必ずしも一地方のみ猖獗を極めざるの同樣であるから、新羅の慶州に其被害があつたとて半島全部の凶作とはいはれまい、左に三國の旱災及び蟲害に就き調査したものゝ一部分を摘錄して參稱に資することゝする。

日本天皇紀元	新羅 首都	王	年	被害狀況	高勾麗 首都	王	年	被害狀況	百濟 首都	王	年	被害狀況
垂仁 六七〇	慶州	南解	七年	―	鴨綠江上流	瑠璃	二九年	―	京畿道廣州	始祖	二八年	四月隕霜害麥
同 六七一	同	同	八年	春夏旱	同	同	三〇年	―	同	同	二九年	―
景行 七五八	同	婆娑	一九年	四月京都旱	同	太祖	四六年	―	同	己婁	二二年	八月隕霜殺菽
同 七五九	同	同	二〇年	―	同	同	四七年	―	同	同	二三年	―
同 七六八	同	同	二九年	―	同	同	五六年	春至夏赤地	同	同	三二年	春夏旱
神功皇后 八八六	同	奈解	三一年	春不雨秋七月乃雨	[illegible]	山上	二九年	―	同	仇首	一三年	―
同 八八七	同	同	三二年	―	同	東川	一年	―	同	同	一四年	三月雨雹四月大旱
應神 九三三	同	味鄒	一一年	七月霜雹害穀	同	西川	三年	四月隕霜害麥六月大旱	同	古爾	三九年	―
仁德 一〇四一	同	奈勿	二六年	春夏旱	平壤	小獸林	一一年	―	京畿京城	近仇首	七年	春不雨至六月
同 一〇四二	同	同	二七年	―	同	同	一二年	―	同	同	八年	―
履仲 一〇六一	同	同	四六年	春夏旱	同	廣開土	一〇年	―	同	阿莘	一〇年	―
同 一〇六二	同	同	四七年	―	同	同	一一年	―	同	同	一一年	夏大旱禾苗焦枯
反正 一〇六六	同	實聖	五年	七月國西蝗害穀	同	同	一五年	七月蝗旱	同	腆支	二年	―
安康 一一一四	同	訥祇	三八年	七月霜雹害穀	同	長壽	四二年	―	同	毗有	二八年	八月蝗害穀
武烈 一一六一	同	智證	二年	―	同	文咨明	一〇年	八月蝗	同	武寧	一年	三月降霜害麥五月不雨
同 一一六六	同	同	七年	春夏旱	同	同	一五年	―	同	同	六年	自三月至五月不雨川澤竭

薄荷の需給(二)

朝鮮に於ける注意事項

▽市價激變の因

前記の如く薄荷の市價の變動甚しきは需要供給の關係即ち栽培反別の增減又は産額の豐凶に伴ふ生産過多或は減少の爲めに市價を暴落暴騰せしむるが如きは他の商品と異ならざれど其外に薄荷には種々人爲的に市價を變動せしむるものあり即ち當業者の思惑は一旦豐凶を耳にするや其事實の闡明に遑なく忽ち思惑をなし競うて其時を大にし又之と同じく海外其他の市况を傳承する生産者又事實の探索に努めずして地元にて思惑をなし作付を加減し其結果事實以上に影響を擴大すればなり更に薄荷の性質として商價なることゝ日用品に非ざること、及び他物の原料としてのみ使用せらるゝ等も其原因の一なり即ち腐敗減耗の虞なく且容量小なるを以て貯藏容易なりと雖も價格高貴なるを以て商人は資本運轉上其貯藏を好まず一度不況を聞くや先を爭うて放賣せんとす又薄荷は日常缺ぐ可らざるものに非ず隨つて一般景氣の影響を受け易し又薄荷は直接消費せらるゝこと稀にして多く他の原料と共に藥劑或は淸涼用等に供せらるゝものなれば價格下落するも直ちに之に由りて其藥劑等の需要著しく增加せざるべきは勿論なり之れ供給過剩の場合更に之を甚大ならしめ買手は强味を得買手は濫買して益々市價を崩落せしめ之に反する場合は又昂騰せしむる所以也

▽需給の將來と朝鮮

薄荷の需要は漸次增進し將來に於ても多少の增加を期待し得べく故に本邦に於ける腦油の産額も亦之と共に增加せしめ得べし乃ち既往に於ける本邦栽培の消長を見れば薄荷は百餘年前既に一部地方に栽培せられたるが其商品と認めらるゝに至りしは七八十年來の事にして更に世人の注意を惹くに至りしは明治十七八年の頃よりなり其後斯業は消長常ならざる間に漸次需要は增進しつゝあり、而して生産品として精製の上は容積極めて小にして價格貴く輸送至便なる故交通不便の地に於ても能く栽培し得べく

朝鮮に於ても注意すべき作物なるべし唯其の市價は前記の如く殊に人爲的に變動甚だしく頗る投機的性質を帶べるが故に之が栽培を開始せんとするに方りては其風土の適否栽培法等を研究するは勿論能く其販路を調査し或は組合を設け副業的に各戶の栽培反別を制限し市價の下落することあるも一戶の經濟に大なる影響を來さゞる範圍に止め之を合して販賣する等の方法を講ずるを要すべし

▽收支計算

參考の爲め先年農商務省にて調査せし內地主要産地に於ける栽培收支計算を掲ぐ

內地に於ける薄荷栽培收支計算

▲北海道
- 收入 薄荷取卸油 二七、三五六(一反步平均六斤)
- 莖葉殘渣 〇、八〇〇
- 計 二八、一五六
- 支出 一六、二三九(種代、肥料、人夫、租稅、農器具損料、土地資本利子等)
- 差引 一二、一一七

▲岡山
- 收入 薄荷取卸油 七七、四〇〇(十八斤、一斤四圓三十錢)
- 莖葉殘渣 〇、七二〇(百八十貫目十貫目に付四錢)
- 計 七八、一二〇
- 支出 四五、〇二五 同前
- 差引 三三、〇九五

▲廣島
- 收入 薄荷取卸油 八六、九〇〇(二十二斤、一斤三圓九十五錢)
- 莖葉殘渣 〇、七五〇
- 計 八七、六五〇
- 支出 六九、一〇〇 同前
- 差引 一八、五五〇

▲山形
- 收入 薄荷取卸油 三二、三四〇
- 莖葉殘渣 二、七〇〇
- 計 三五、〇四〇
- 支出 五〇、七〇九 同前
- 差引損 一五、六六九

大阪財界通信

△海軍巨砲製作 海軍省にては歐洲戰亂に鑑み民間工場に於ても大口徑艦砲の製造をなすやう獎勵する目的にて室蘭製鋼所、神戶製鋼所等に之が設備を慫慂しつゝあるが神戶製鋼所は單に砲架と砲彈の製造をなし得る設備を有するのみなれば目下工事中の增設工場に於て大口徑の砲身及び魚形水雷の製造をもなし得べき設備をなすと而して十五吋以上の大々徑砲をも製造する計畫也

△白金の思惑買 貴金屬中白金は兩三日來思惑師の買占と輸入杜絕の爲め昨今殆んど拂底を告げ其價格も一定せざる有樣なるが去月十日大阪造幣局に於て白金屑の拂下を行ひたる當時一匁二十七八圓の高價にて取引きせられたるを以て之を最定相場とすることゝし今日にては一匁三十圓內外を示しつゝあるが如く暴騰の爲め時計及び鎖の製造は殆んど不可能となり化學に應用せらるゝ鹽酸加里製造の電氣分解に多大の不足を生じつゝあり

△新染料の製出 日本舍密會社にては染料の代品として今回アニリンサロート及びアニリンオイルの製出の計畫を爲し種々研究中の處昨今會心の結果を得るに至り試驗的に製造せるが好成績を擧げ同工場設備完成と共に近々操業開始の筈にて目下の處一箇月二萬封度の製産力ある由にて市價暴騰せる際なれば相當需用あるべし、

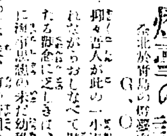
△パ臘益々暴騰 スタンダード會社賣出中止の爲市價暴騰を告げたるパラピンは目下ライジングサン會社の獨占の狀態となりたると露國がスマトラ方面に産出するものを米國の手を經て輸入を企て居れるより益々暴騰十六日ラ社は百二十五度、百三十度百三十五度のもの各五圓高に百四十度のものを六圓高に發表し平時相場に比すれば殆んど倍價に達し尙ほ益々騰貴の傾向を示し居れり

△藤田の合金鐵工 藤田組は各種の合金鐵製作に成功し既に其製品を市場に賣出したるが之が大規模の製作所建設位置につき一時名古屋附近の說ありしも電力の供給につき此程猪苗代水電との間に契約成り福島縣の同湖附近に決定せり

△鞄の二割値上 大阪にては鞄製造原料の皮革は戰亂後輸入杜絕し且つ原料金具も亦昂騰の折柄工賃の値上に伴ひ絕對に從前の價格にては到底收支償はざるに至りしより茲に各製造業組合の決議に基き各種の鞄に對して一齊に二割の値上げをなすべく協定せり

△石油又々値上 內外國石油商は去十八日各銘柄に二十五錢高を發表せり
(大阪支局發)

燈臺の話 1



余於省島の燈臺守 G、O生

抑々吾人が此の一小島國に生まれながらおしなべて燈臺の何たる觀念に乏しきは、要するに海事思想の未だ幼稚なるに基するのであつて、我が海の帝國の爲めに誠に嘆かはしき現象の一つであると思ふ。余が燈臺守として燈臺界の詩的生活に入りてより未だ僅か日淺く從つて航路標識上の學理經驗に乏しき次第、其他に就き日々見聞せしことに依つてこれを算し、平易なる京城日報紙を借り公にせんとす、讀者諸氏諒せられ

航海上燈臺の必要

我が國民が、日本より外に國も人もないと考へて居た昔の丁髷時代では、人口も至つて少なく交通も從つて海陸共に發達せず、又從つて之等交通の必要を認められなかつたのである、如何となれば、國民は皆温和の感など、抑して安閑と、呑氣な唄ひ働、紙などを手にして賑つて居ればそれで宜かつたので、又海邊の人々が、漁業を生計とするにも純々の近海で踏む位の小魚漁りをするといふ樣な工合で、現今の如き發達せる航路標識の必要を認められなかつたのである。然るに現今の日本の狀態は如何と云ふに、世界の日本とまで呼ばるゝ、即ち讀者諸氏の知る如く蓋世たる此の一海嶼で、四面海もて圍まれて居る、蓋し此の一海國さいふ事が既に早や航路標識の必要を絕叫する譯なので、歐米各國の航海者が五十年の昔に於ては『日本は發達すべき國なり』と斷言せしは、是れ第一國民の氣象よりも我國の形勢より云つたもので、換言すれば『日本は海國なり、交通を要すべき國なり』と云ふことである、果して維新後僅か五十年を出でずして交通頓に發達し以て歐米の文明を採り、世界の日本と迄で進歩したのであるけれども未だ以て國民は之れに滿足は出來ないのである、何となれば、人口は日を逐うて增加し來り、諸般の需用は多くなり、如何にしても此の小なる且つ、限りある一海國に住み、昔の如く働や、紙ばかり持つて居つたのでは、到底世界の各國と肩を並べて行く事が出來ないのである、已むを得ず諸外國の輸入品を仰ぐと共に一方には何か國產を輸出して、輸入の補償ふ策を立てなければならぬやうになつた、偖てかゝる事業をなすには何に依つて成すか、他なし、航海事業あるのみである、偖て此の最も危險なる航海事業を何に依つて危險なしにするか、是れ又、他なし、航路標識を完全にするより外にはない、[illegible]

航海者の生命を國の文明を助く

[illegible]

鐵嶺丸の沈沒と朝鮮にての竹島沖

[illegible]

日報俳壇

雉子郎選

■ヘチマ會句錄(上)

二月十八日、鞍馬の出のそれならぬ、南山の麓に第二回を開く、ヘチマ天狗の集れるもの柳風、一步、其右、井洋、秋紅、酉洲、翠溪、田孝、三瓢の十羽とす、四溫の夜なれば灯さぼころに四散したのであつた

酒量減りみかこちあへり歸雁見る　三瓢
水郷にたゞ一連の歸雁かな　井洋
歸雁一聲弦月に杜の黑ずめり　田孝
悲議となりし沒落の夜の雁名殘る　三瓢
木の香高き宮居の芝生青み鳧　一步
鞭うてど牛の歩みや草青む　柳風
碑刷る紙草青む風に煽り鳧　三瓢
一畝だけ草萠えのびし野火の跡　井洋
懷鄕の人の心や歸る雁　翠溪
吾讐が書窓の下や草萠ゆる　酉洲
村芝居莚の跡や草青む　其右
行く雁や呼び合ふ舟の雨に暮る　翠溪
草萠ゆる頭師の勵行も怠りて　井洋
萠え草に淺き蹄や敵近し　其右
下萠や姉に送らん菫など　秋紅
言問ひに恨みある夜や歸る雁　柳風
碁目の正しき園や草萠ゆる　其右
雨十日下萠に旭のうつろへり　秋紅

小春

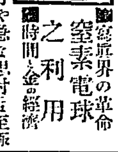
小春日や蠅飛んで居る草の上　容堂
急ぎ旅の城も汽車より小春哉　雉子郎

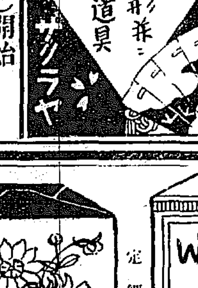
冬の夜

冬の夜や朝鮮劇の鉦亂打　陵雨
火に投ず密書尊し冬の夜　蘇水
藥煮れば猫むせびなく冬の夜　青奴

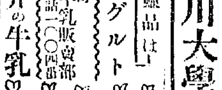
石炭 明治町一 村山商行 (電話一五〇一番)

夜間撮影 夜寫し開始 御光線電氣 窒素電球之利用 寫眞界の革命 時間と金の經濟 營業御用事のある方や急な思付には至極御便利出來榮へに遜色と變らず料金は低廉 京城寫眞館 南大門通三丁目 電話一〇四〇番

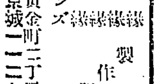




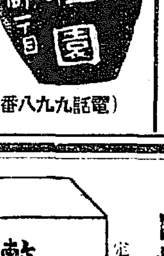
水車 唐箕 製造販賣 京城本町二丁目(元泥峴) 土井米吉 電話一三二六番



長壽靈品は「ヨッグルト」 滋養・健康の母は「荒井の牛乳」 京城若草町 荒井牛乳販賣部 電話一〇四番



眼鏡專門 宮川大學堂 金銀赤金銅 各種レンズ 製作販賣 京城黃金町二丁目 振替京城一二二九



カフエー、タイガーの名物(金十錢) 新案 ハイカラどんぶり 是非御召上れ出前も致します 南大門通三丁目 電話二五七一番

營業案內

喫煙界の福音

代表的紙巻煙草！

內地產優良銘葉三代表煙草

定價金九錢

敷島 內地産優良の銘葉を以て精製し氣品高く香味淸洒にして上流縉紳の御愛喫を忝ふし居る事は事實の證明する通りであります

定價金七錢

武藏野 喫味の典雅なるは大方愛煙家の御承知の通りですが今回大奮發にて定價金七錢に改定致しましたから一層の御愛喫を願います

定價金五錢

朝日 喫味と價格の點に於て比類なき代表的卷煙草である事は既に定評ある通りです

御注意

定價金二錢五厘

定價金二錢

ウエルスと**ダリヤ**の二品は世界の煙草界を風靡して居る英米トラスト煙擊退の殊勳を奏したる銘葉であります今後一層御眷顧に酬ゐんとて六英斷を以て大値下げを致しました

昨今弊社製品の賣行益々旺盛を極むるに伴ひ商標意匠等を模造したる不良品の市中に散見するを認めます大方各位の御注意を希ひます

東亞煙草株式會社

一、土地買收係附委員は期成會土
三、土地調書作成係附委員に願書に添附すべき土地調書及び土
一、長專厳 排込督勵係村道書記
所要面道岩洞金龍瑞宅の外圍なる四尺餘の石垣を飛び越え一頭の豚が 民二十名と共に此を追ひ附近の山岳を狩り立てたるも行衛更に不明也

◉素晴らしき空中戰

サロニカ北方にて獨飛行機を鹵獲す

サロニカ來電に據ればサロニカの北方に於て素晴らしき空中戰あり佛國の一飛行機は佛軍戰線を撮影中なりし獨逸アヴィアチツク飛行機を捕へたるが當晉西人なる操縱者と同乘せる將校は機より引卸されたり獨逸將校は腿に五發の銃丸を受け居たるも佛國飛行家には被害なし鹵獲飛行機は全然破壞されず其の儘サロニカに於て一般の觀覽に供され居れりサロニカ駐屯聯合軍總司令官サライユ將軍は右佛國飛行家の功を賞し勳章を授く又發表さるゝ處に據ればストルムニツアの勃軍陣營に對し百六十五個の彈丸投下せられたり其の途中獨逸飛行隊と交戰し佛國飛行家一名負傷せるも全部歸來せり（倫敦電報）

◉議會終了は廿八日

二十九日閉院式擧行

第三十七議會は本月末日を以て滿了するにつき二十八日を以て會議を終り二十九日貴族院に於て閉院式を擧行すべし當日は　陛下行幸あらせられ首相勅命を奉じ閉會式勅語を捧讀すべしと（東京特電）

◉紙價暴騰問題

提出案の撤回

新聞社に關係を有する各派代議士は紙價暴騰調節策として印刷用紙輸出制限に關する法律案を提出する事に決定したるが是れに對し當業者並に新聞協會役員は十九日午後三時衆議院內閣書齋に會合し關係代議士と懇談する處ありたる結果當業者側は過半決定せる三割値上げを撤回する旨申出でたるより議員側にては該法律案の提出を撤回せり但値下げは新聞用紙に限る由（東京特電）

◉親奏任昇進上奏

去る一月樞密院の諮詢を經て衆議院に提出可決され更に去る九日貴族院を通過したる會計檢査院長、行政裁判所長官を親任に昇進の件及び兩院守衛長奏任昇進の件は近日再び樞密院に諮詢し上奏御裁可を仰ぎ親任式を行はせらるゝ由（東京特電）

◉朝鮮輕鐵創立

三月中旬創立總會

朝鮮輕便鐵道會社は十八日設立の許可を得たるを以て資本金三百萬圓中第一回の拂込（四分の一）を三月上旬までに實行し同月中旬東京に於て創立總會を開き會社役員の顏觸れを確定し施工認可を受けし上にて七月には工事著手の運に至るべしと云ふ會社の豫定線路は四區とし第一區は大邱より慶州に到る四十二哩、第二區は慶州より浦項に到る十八哩、第三區は慶州より蔚山を經て東萊に到る五十四哩、第四區は蔚山より長生浦に到る七哩合計百二十一哩にして工事は第一區より著手すべし株式は李王家の一千株、鍋島侯の二千株を始め澁澤男、大倉男、中野、郷、藤山、小野、園田其他東京方面の有力實業家並に朝鮮に於ける內鮮有力者より大口の引受あり創立委員は左記の二十名なり

委員長宇佐川一正、常務委員佐藤潤象、安藤保太郎、委員中野武營、園田寛、郷誠之助男、小野金六、渡邊嘉一、武和三郎、中野實、超重遠子、山口太兵衛、小泉策太郎、磯部保次、石丸龍太郎、大池忠助、迫間房太郎、鄉石草、石橋甫、小倉武之助

◉暖氣と南鮮農作

石井慶南道技師談

冬期と關係を有する農作物は主として麥作なるが昨秋南鮮各地の播種時季に當つて連日の雨ありしため著しく發芽遲れ從つて生育狀態も平年の如くならず幾分氣遣はしき點ありしも一月に入りて珍しき暖氣となりたるため頓に生育の度を增し漸く平年の域に達したり然れば暖氣のため本年の麥作に惡影響を來す事決して無かるべく寧ろ喜ぶべき現象にあらざるかと迄に思はる又害蟲發生を杞憂する人多々あるが如きも元來害蟲は大抵の寒氣にては斃死するものに非ず且つ繁殖季は四五月の頃より夏季に限らるゝを以て冬期の寒氣には左程の關係なし只僅かに土壤の風化作用に關係あるも之れをも問題とする程のものにあらざるが如し大體に於て朝鮮は麥種の蒔付晚き爲め冬期の寒暖が及ぼす程度は內地の如きものにあらず（釜山）

◉最近荷動狀況

二月上旬に於ける鐵道貨物荷動狀態を見るに發送噸數三萬二千五百卅五噸收入八萬七千百八十三圓にして之を前年同期の一旬分に比較する時は數量に於て二千七百七十五噸（七分八厘）收入に於て九千七十七圓（九分四厘）の減少を見る之を貨物別に見るに

▲米　米價は內地に於ける前年實收額の多寡に對する觀測なるものありしため前月來氣迷の姿を呈せしが本月二日發表せられし實收額は五千五百九十一萬餘石の大豐作なりし前々年に比し約百萬石を減せるも平年作に比し約一割の增收にして市場概ね樂觀說に傾き氣配益々軟弱を示し加之內地市場に於ける停滯米は消化緩漫にして依然として多額を算し延いて鮮內地各地の市況沈滯に歸し荷動き頗る閑散にして前年同期に比し實に一萬一千餘噸の激減を呈せり

▲大豆　大豆も亦市價軟弱なると前旬に於て述べたる如く漸進的取引の時季に入りたる等の關係上捗々しき荷動を見ざるも內地直通輸送のみは相當の出荷を持續し金泉鳥致院郊南川新幕金谷等より鹿兒島下關博多濱町天滿川端等に仕向けらるゝもの最も多し

▲雜穀　前旬に比較し稍々減退せるも尙百噸內外の出荷あり新幕興水沙里院黃州の出荷を主とし就中沙里院興水發元山地方行粟を最とす是は黃州管內に於ける粟作の豐饒に依る現象なり

◉朝鮮九州貿易

福岡實業團活動

九州は位置の上よりするも將た從來の關係よりするも朝鮮貿易の關係は最も密接ならざるべからざるに反し實際に於て製產品として朝鮮に移出せらるゝものゝ比較的少數なるが殊に福岡縣の如きは各種の製產品に乏しからざるに拘はらず大阪、愛知、岡山、廣島、岐阜等の各府縣より移入せるもの多くして同縣の製產品として朝鮮に認めらるべきもの殆んど之れなき狀態なり固より縣下の各種實業團體にありては從來屢々朝鮮に視察員を派し其の結果製品販路の開拓に努めざるにあらねど其の多くは一時的にして

▲永遠に鮮人を顧客とする念慮なく從つて鮮人の嗜好を知り希望を受くることあるも之に應ずる者なく一方他府縣當業者にありては進んで之が希望を充さんことに腐心し努めて製品の改良をなし以て移出を試みつゝある結果自然鮮人の歡迎を受け遂に九州が他府縣に凌駕せられて今日の非運に立至れる次第なりと云ふ左れば福岡縣下の實業家中には極めて之を遺憾となし大に

▲朝鮮貿易發展の急務を唱導せる結果同縣實業團體聯合會亦大に見る所あり乃ち之が發展を期する方法として鮮人をして親しく同縣の製品を目擊せしむると共に汎ねく之を紹介し以て鮮人の嗜好に投ずべく其々改善を施さんには其販路を擴大し得ること必ずしも難事にあらざるべしと爲し先づ朝鮮に於て適當の場所に福岡縣物產紹介所を設置し之れに縣の製產品を網羅し鮮人に實地製品を目擊せしめ廣く之を販賣せんとの方針を定め右に關しては何れの地方に之を設置すべきや將た如何なる方法を以て紹介すべきや等に付きて先づ

▲朝鮮の實狀を充分調查するの必要あり大正五年度に於ては聯合會中多數の組合員視察の途に上るべく右に付近日開會すべき聯合會通常總會に之れが案件を提出して具體的決議を爲すべしと（福岡）

◉大連と減賃問題

三線連絡減賃と滿鐵

院線、鮮鐵及び滿鐵の三線連絡運賃は輕減實施の當時一箇年と限られし爲め昨年三月その實施試驗の結果に依り其の廢止又は繼續を決すべき譯なりしに其際猶ほ結果の不明なるものありし爲め自然その儘延長せられ繼續今日に及べるが連絡運賃輕減の影響に就いては滿洲において久しき前より種々調查する所あり大連商業會議所も今回安奉線減賃後の狀態を調查することに決し近く所員を安奉沿線並に朝鮮方面に派する筈（大連）

◉萩製品の獎勵

平安南道の遺利

平安南道の山間部孟山德川寧遠陽德の各郡に產出する萩は一年約三十萬七千束重量概算八十萬貫に達し之れを單なる燃料とするも八千五百圓の價格に相當するが各郡農民中手工に長けたる者は右の萩を以て行李、籠類、壁取籠箱籠旅の如き日用品を製作し之れを市に出す高約三千圓に及ぶも其他は全部温突燃料となり居れるにぞ道廳にては萩の手工精製により原料の約三倍乃ち三萬餘圓の利益を收め得べしとなし目下萩製品の獎勵を行なひつゝあり如斯は全く遺利と云ふべく又萩の產出も事實は前述の數字より遙に多からんとの事也

◉慶北鮮人と國語

近年作業を逐うて鮮人の各階級を通じ職業上生計上の關係より內地人との間に密接の度を加へ來り時勢の推移に伴ひ全般に亙りて生活狀態及び風俗習慣等も漸く日本化しつゝあるが或る確かなる筋の最近の調查に依れば慶尙北道管內鮮人にして日本語を稍や了解し得る者は八千六百十七名、通常會話に差問なき迄に進步したる者四千四百六十六名にして之を四十三年頃に比し約十倍の增進を示せりと（大邱）

◉慶北主要陸海產物

慶北道各郡を總括したる道內主要陸產物海產物に就て一箇年間の產出額を示せば

△陸產物　米一箇年產額百四十萬石△大豆同四十萬石△莞草同七萬三千貫△麥同百二十石△棉花同七十萬貫△繭同一萬石△桃同九萬貫△葡萄同一萬三千貫△梨同七萬貫△林檎同十八萬貫

△海產物　鰊一箇年漁獲高二十五萬圓△鯖同二十二萬圓△手繰二十萬圓△鰮同四萬圓△鰤同二十五萬圓△鯛同二十萬圓△鯔同六萬圓△和布同三萬圓、其他各種一個年百萬圓

◉仁川海上保險

既報の如く仁川に於ける米豆の不況は廻漕の減退輸移出の減少を來し從て貿易と形影相添ふ本業も勢ひ不振の域を脫する能はず今茲に東京海上、横濱海上、神戶海上、日本海上及び帝國海上の各保險會社當地各代理店に就き保險契約高保險料及び支拂損失金の本月中旬迄の計高を前月中の其れに比較すれば次の如し

	保險契約高	保險料	支拂損失金
本月中	一、五九〇、一三〇	三、二〇四	―
前月中	二、二四三、四〇〇	四、八五二	一八

即ち本月中の保險契約高は前月に比し六十二萬三千餘圓保險料は一千六百餘圓孰れも減少を來せり

◉新灘津芙江間勾配工事　京釜線新灘津芙江間は豫て五十分一勾配にて之が改良工事施行中の處此程竣成したるを以て來る十九日より百分一勾配の改良線路を運轉す可く尙大田芙江間に使用したゝし補助機關車を廢止する由

□大阪だより

（十七日 安府發）

◎京大法科の教授毛戶博士は二十日辭表を提出し大阪に於て辯護士を開業する由京大法科は或意味に於ける北にして各教授相踵で出づるも其多くは東大に拉し去られ洵に晨星寥々の觀あり殊に刑法民法のオーソリテイ勝本岡村兩博士去て大阪に辯護士を營み今亦商法の大家毛戶博士野に下る京大法科の爲めには惜むべきも大阪法曹界の爲には喜ぶべきなり

◎大阪梅田高等女學校長柴直太郎氏は三十年一日の如く女子教育に任じ實踐躬行終始渝らず性行篤實女子教育家として全國有數の老教師なりしに十六日京阪電車に轢かれて橫死したり、教育界の爲めに痛惜に堪へず醉餘の不注意にも非ず軌道步行の犯則にもあらず停留場の區域內に於ける椿事として京阪電車に傷害の責任ありと云ふべし

◎十七日より三日間大阪美術俱樂部に於て開きたる東京大光社の光華畫展覽會を一覽するに雪舟周文元信等の古畫類より山陽竹田崋翁春梁等の古人畫讚中特に傑出したるもの約九十點を複製して陳列したり其技術は一見して驚嘆に値す之が寫眞版とは信ぜられぬ程なり

◎大阪財界の雄將島德藏氏の嚴父德次郎翁は腦溢血にて十六日夜逝去せり享年六十四、翁や資性温厚未だ人と爭ひし事なし、身を仲買人に起し奇道を執らず冒險を敢てせず著實にして堅實、堅實にして周到以て今日の富を積みし人なり

人事消息

▲磯部親信氏（京畿道警務部長）管內出張中の所十九日歸任

▲首藤陸軍少將（鎭南旅團長）二十日入京天眞樓へ

▲向井巖氏（平壤覆審法院檢事長）入京中の處二十日歸任

▲横井三郎氏（慶南事務官）二十日夕入京南尾旅館へ

▲藤谷淺吉氏（登川憲兵隊長）二十日夕入京山本旅館へ

▲永井松太郎氏（仁川土木局出張所長）同上

▲東條定一氏（大正生命保險會社長）入京中の處十九日內地へ

□米の群山（七）

中島生

五、港灣概觀（承前）

群山港に於ける潮水干滿の差は頗る大きい。海軍水路部の調查によれば大潮升二十四呎、小潮升十七呎半にして潮升多き故に地理學上に著名なる仁川港に比すると大潮に七呎、小潮に四呎を讓る丈けである。從つて潮流が急にして大小の船舶共に滿干潮の潮合を利用して出入せざるを得ぬ。又河港の特性として常に土砂を堆積し洲渚所在に出沒するが故に、常に浚渫船を要し且つ航路不案內なる汽船は水先案內なしには出入に危險がある等は群山港として大なる不便の一である。さり乍ら是等の不便は絕對的不便と云ふものではなく、港灣政策の如何によつて相當に除去せらるべきものであると思ふ。

次に內地水路及び鐵道との運輸關係より見るに、此點は殆ど遺憾なしと謂ひ得る。即ち群山附近は錦江、東津江、萬頃江等の舟揖の便に富める河川多く江景全州の兩平野よりする米穀の輸送は是等の江水を利用する事頗る大なるものである。鐵道の關係は湖南線である。大田驛より木浦に至るもの、及び裡里より岐れて群山に達するもの總て合せて百七十五哩、而して其約三分の二は群山商圈域內にありて、全忠平野の眞つ只中を貫通し多數の都邑を連絡して居る。湖南線の開通によりて群山は世界的大通路と連絡するを得て其の商港たる價値を高めしこと至大である。是は敢て絮說を要せぬ是等交通機關の變遷が群山に及ぼしたる影響は單に群山といふ地方的特殊の問題でなく一般的に興味ある問題である故後に改めて述べる事とし茲には略す。

次に經濟區域の大小及び產業の隆否であるが、是は前に『背後地』のところで書いた事によつて群山港の價値は充分に了解が出來ると思ふ。最後に港としての性質を云へば群山は寄港地である。輸出港である。航路の如きも大阪仁川線、橫濱大連線、長崎大連線、若松木浦群山線の外に沿岸航路の要衝であつて、奧地產業の發達と共に商港として益々繁榮すべき運命に在る。但だ其繁榮や一に四圍の境遇に支配せらるべきが故に、自然の條件が如何に人爲的に助長せられ以て完全なる港灣となり其使命を完うし得べきかの問題は、實に懸りて群山人士の雙肩に在ると思ふ。米が生命であり港が生命である以上、群山の人は米と港との問題を一日でも忘れる事は出來ぬ。

南言北語

獨逸の埃及遠征計畫も最う少々古臭くなつたが何うしても土耳其の事業としてやると云つて居る▲英國側ではサー何時でも準備が十分であると鼻で笑つて居る▲兎に角金ヅクの話なら恐らく英國の敵になるものはあるまい▲今日は廿一日だ、丁度今日首相アスキス氏が英國下院に提出して協贊を求むる筈の戰費支出案と云ふのは▲驚いては不可ない四億磅だ、日本で云へば四十億圓、實に有史以來未曾有の軍事費だ▲聲許り聞いて腰を拔かす連中があるかも知れないタツタ二千萬圓で英詰りしかゝつた內閣もある今日だからナア▲革命討伐軍は自ら振つて激戰し敵の死傷七百我損害十餘名なんて支那では通用し相な公報を出して居るが▲北京では此頃帝政中止派が大分優勢になつたらしい▲過般都肅政史莊蘊寛は中止建議で忌諱に觸れ部下の肅政史を率ゐて去つた▲處が中止說は却つて高まつて來て所謂袁總統が嵩山の四友迄も頻りに中止を出張する▲張勳迄も四箇條の反對を上げて四不忍と題する中止勸告書を北京に送つたと云ふ▲討伐軍が八面應酬をする處はサテも見物だ▲が抄なしからず三面六臂の袁總統が八面にしてもまだ二面足らぬけれど其の六臂で搔き回す處は山芋を搔ね廻す位に思つて居るのだらう▲搔ねて〳〵搔ね廻した山芋が咽喉に詰つて目を白黑する時節も餘り遠くはあるまいテ▲某顧問は搔ね廻す間に早く南方と妥協をせよと勸告した相な▲日本でも還元案を妥協したが彼れは妥協ぢやない一二の者が話し合つた丈けだと濟して居る人もあるからナ▲袁總統も和睦の出來た時分妥協ぢやない彼れは誰かゞやつた事だから己れは知らぬでサツサと登極して仕舞へば手ツ取り早くて好いではないか▲何あに其れが當世の大政治家だよ

□阿部社長へ　無名氏

月に出ては寒し高麗の春

一時絢もがなと操觚の人

木材賣却公告

京畿道水原郡花山森林內所在

第壹號　松約壹萬壹千尺締　櫟約參百六拾尺締

第貳號　松約八千八百尺締　櫟約貳百六拾尺締

第參號　松約七千八百尺締　櫟約五百四拾尺締

右各別ニ競爭入札ニ附シ賣却ス希望ノ向ハ來ル三月五日迄ニ當職會計課又ハ當職花山森林事務所ニ出頭ノ上申告書ヲ提出シ入札心得書、契約書案及現品ヲ熟覽スベシ

但入札日時ハ追而申告者ニ通知ス

大正五年二月　李王職

東京高等工業學校教授 工學士 中村幸之助先生校閱
東西電氣合資會社 技師長 朝倉元次先生新著新刊

水力發電所之設計

▽菊判三百二十頁 插圖三百有餘 ▽定價金壹圓 送料十二錢

著者は曾て鬼怒川水電會社にあり專ら設計を擔任し其完成を遂ぐ、著者の天才的知能は我が電氣界の讃嘆する所也、今此書成る學者實際家の愛讀を賜ふや必せり

發行所 東京市小石川表町 大日本工業學會
賣捌 京城本町 大阪屋號書店

營業▲品目

肥料部　蒸製骨粉、乾魚、蹄角粉　星印配合肥料、細工用地骨　細工用蹄角各種膠及膠原料

石鹼部　化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼　牛脂、椰子油、鯨油、其他油脂類、苛性曹達、洗曹達

京城東大門外紅薬町　朝鮮肥料製造所　電話二六三五番

京城岡崎町一四番地　朝日石鹼製造所　電話二五六四番　電話九七三番　振替口座京城四〇〇番

完全代用乳　母乳代用品

品質粗惡成分不良ノ模造品數種有之危險ニ付御注文の節は必ず犬印とご指定被下度候

弘田博士外五博士實驗推薦　各醫科大學各專門學校御用

犬印　滋養糖　DR. SOXHLET NAHRZUCKER

小兒ノ身體ヲ強健ニ肥大ニシ腸胃ヲ調整シ貧血虛弱ヲ挽回ス

諸大家實驗報告＝御申越次第進呈

發賣元　東京神田　和光堂　電話本局一六四八番・振替東京一四九五九番

各地藥店及食料品店取次販賣

內外各種ブラシ製造原毛販賣

龍山漢江通八番地　岩宮商會　電話一一四番

貯蓄預金　元金百圓ニ付日步壹錢四厘　金壹錢以上何程ニテモ御預申候

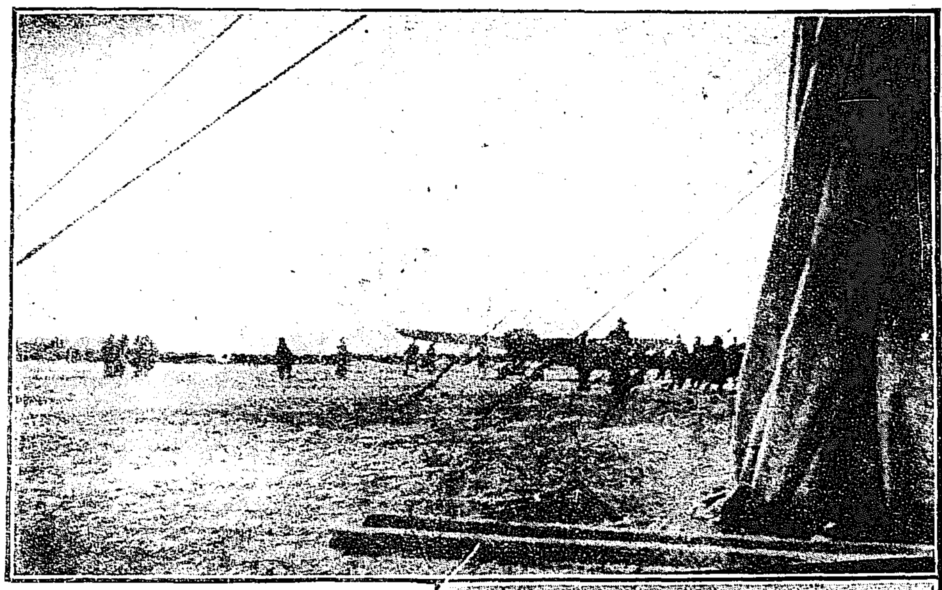
株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社十八銀行京城支店　京城黃金町 電話四三〇番 五八〇番　振替貯金口座京城八一四番

同　龍山出張所　龍山元町二丁目 電話一八番

諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

田東町の池尸……に亘り約八萬二百坪の敷地に分工……兵器廠の活動 ……と云ふ定評であるから商賣人なんかでも工……世間の人氣が惡いとは一般の……を使用して居るにも拘はらず尚ほ職工の不足を示して居ると云ふ有樣で……戰役當時から痛切に感じてゐたので……ものを作るには第一製作兵器の運搬に便利なる土地、職工供給に充分……いのみでなく陸海の交通にも頗る便……した譯である名古屋は單に電力が安……た位置……もあつたが愈々名古屋に決定……



●極寒に堪へ得可し

充分なる成功—井上交通兵團長談

交通兵團長井上中將は十七日早朝より奉天耐寒試驗飛行場に出で曾田飛行班長及び各飛行將校より過日以來の飛行狀況に就きて詳細なる報告を受けたり同中將は我社特派員に語りて曰く

我陸軍飛行隊は内地に於ける惡氣流及び其他樣々の障害に打克ち今や驚くべき長足の進歩發達を遂げたがまだ大陸に於ける極寒と

■機上觀測 狀況の試驗を行はざる可からざるを以て今回奉天を中心として耐寒飛行を爲し其の結果は未だ研究中に屬するを以て語る事能はざるも要するに十三日以來の飛行成績は頗る良好の結果を收め以て我飛行機及び飛行隊が大陸の極寒に耐へ得る事を實際に證明し得たりと云ひ得るので有る其の偵察狀況等に於ても各飛行

■同乘偵察 將校に取つて必ず得る處が多かつた事と思はれる今や飛行機の進歩發達は非常の速度を以て進み最早我陸軍飛行機の如きは或る異常なる特別の場合を除くの外は絶對に墜落するが如き事無きに至つた之れに反して民間飛行家は一つの尾崎氏を除くの外は未だ悉く安心する者がない之れ民間飛行家が自己の名聲を擧ぐる事にのみ熱心で

■機械操縱 飛行の練習等に對する熱心を缺いで居るからである又民間飛行家に在つては機械の購入に際しても充分に金を掛ける事能はず其の練習の如きも又多額の費用を要するを以て熟達の域に至る迄の練習を爲す事容易でなく且つ其の飛行の

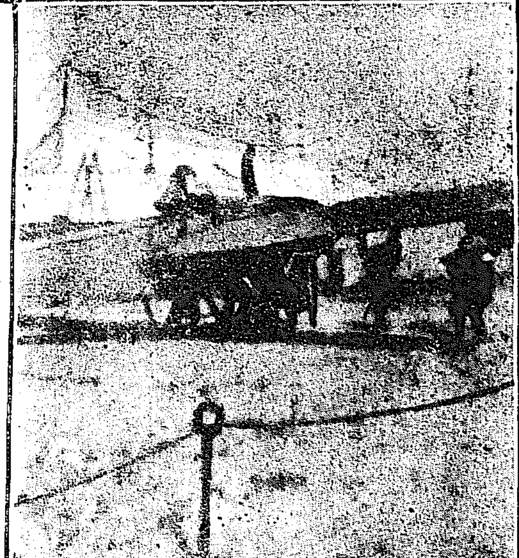
井上交通兵團長

際の如きも入場料を徴收して多數の觀覽者の面前で飛行するが故に

■飛行の際 機械の檢査等も未だ充分ならざるに群衆の希望に抑されて慌ただしく飛行するが如きを常とし往々間違を生じ以て折々飛行界を脅かす事あり飛行機は近き將來に於て普通の交通機關に用ひらるゝ程度までの發達を爲すに至るべき機運に向つて居る夜間飛行は專ら敵地に對する

■爆彈投下 及び牽制等に用ひらるゝもので殊に城市の包圍軍に有りては頗る偉大なる攻撃力を有し之れに反して襲撃を受ける市城砲臺等に取りては夜間の飛行機襲來は頗る兵氣人心を沮喪せしむるの不利を蒙らなければならぬ又飛行機は偵察及び爆彈投下の外に敵地の狀況及び

■敵の城塞 等の寫眞の撮影を行ひ之れに由つて敵情を知る事を得るので有る、英國の飛行家が夜間飛行に於て空中より敵營の寫眞を撮たのが有るが敵の探照燈に由て敵の陣地が明瞭に映つて居る事なども有る



奉天練兵場に於けるニューポール式二十四號の飛行

▲以て威武を示す

歎ふ可き現象—飛行の効果

奉天に於ける要路の一官人は語りて曰く昨年夏、日支交渉の縺れから最後通牒を發すると云ふ樣な噂のあつた時、滿鐵會社では各沿線の社員を

■引揚げの準備 を命じた、すると怖氣付いた滿鐵社員とこれに誘はれた奥地の邦人は今にも支那人が闖入し來るかと云ふ樣な騷ぎをして續々家財家具を纏めて引揚げたが其の狼狽さ加減と云つたら言語同斷まだ列車の發する迄には三十分も有るのに

■停車場目掛け て吶喊をする、足の遲い女や子供は聲を揚げて泣き出す、之れ實に晴天に雲を見て傘を翳して跣足で逃げ出す恰好であつて他の目から見れば正に狐狸に瞞されて居る樣なものであつた。これまでは支那人の眼に映じて居た日本人と云ふ者は女でも子供でも非常に剛膽なもので滅多に手は出されぬとばかり思つて居たのが、此の醜態をサラケ出した以來、滿鐵附屬地は

■頻々と馬賊に 侵されるやうな有樣になつて來た。是では不可ぬ。今一度何か機會を見付けたら今度こそウンと日本の武威を示して置かなければならぬと思つて居る内に飛行機が來た。これは確かに在留邦人の爲めには有難い好い事である。これで多少

■日支交渉時代 に狼狽して以來、輕侮の眼を以て見て居つた支那人の肝膽を取挫いだ譯である。主權の確定して居らぬ處に植民せんとするには非常に其一擧手一投足の結果が其の在來の土民と我が植民とに如何なる利害を近き又は遠き將來に及ぼすかと思ふ事に就て

■充分に研究し 其の是なる施設は一日も其の手を休めず其の非なるものは一刻の猶豫もなく改めなければならぬ。我陸軍の飛行機の來たのは甚だ悦ばしい事である、而も其の成績の極めて良好にして自由自在に飛行上下して最早我飛行機が威力強大にして墜落の憂ひ絶對になき事を支那人に知らしめた譯である

▲自動車隊

氷上試運轉効果

自動車隊は十七日頃までに昌圖單原等を經て歸奉の豫定であつたが途中積雪と道路の開鑿と無き爲めに豫定以上の時日を費した殊に今年は温暖なりし爲め各河川共に結氷厚からず爲めに自動車の交通其の便を缺いだ是れ亦自動車試運轉隊の豫定期日に遲れた所以である滿洲の如き大陸に於ては有事の日に自動車は飛行機と共に交通連絡の主要なる者に屬し居るを以て荒野を容易に驅走し得らる樣に自動車に改良を加ふる事は最も急務であらう。

▲空中を行く猶地上を行く如し

岡飛行大尉歯返り飛行に就て語る

屢々歯返に近い空中滑走をして冷汗を流さした岡大尉の談に

僕の空中滑走ですか左樣急に勝手な時に行るから見て居る人は驚くでせうが案外

▲乘つて居る者 は平氣です歯返りだつて強ち六ケ敷いものではないと思ふが陸軍の飛行機は曲藝を行ふ必要はなく又そんな事は絶對に止められて居るから行る事は出來ない僕の行ふ空中滑走は

▲空中モーターに故障を生じた場合に必要な練習です

▲機が逆に直立 した時に身體ばかり墜ちる樣な事はないかと云ふのですかそれはあの重い機が發動機の運轉を止めて急轉直下する勢だから人間よりも却つて早く落ちるから機より早く下を落ちる樣な事は無い其の上機上にはアルミニュームの椅子が取付けられて居つて機上の人は廣い革紐を以て其の椅子に

▲確かり結付け られて居るので有る、逆落と云つても決して機の落下する儘に任せて置くわけではなく空中滑走と稱して地上を滑走して居る心持ちを以てハンドルを操縱して居るのである

◉獻木約八萬本に達す

明治神宮の釿始式

明治神宮の釿始式は宮職執行の筈の處都合に依り延期されたるが既に御用材は木曾御料林を始め臺灣阿里山等より續々搬入せらるゝを以て愈々

▲三月下旬執行 のことゝなりまた林苑の設計に就ては昨年來内務省御造營局に於て河瀨、本田、原の農林學博士等主任となり專ら調査研究中なりしが此程大體の調査を了し三月初旬同評議員會を召集決定の筈なるが昨年末迄内務省に達した獻木總數八十五種七萬數千本に達し尚ほ同造營局にては近く東京市を中心とし約

▲三萬本の樹木 を購買する筈なりと因に德川公を會長とせる明治神宮奉贊會理事會は十五日午後二時より同會本部に開會澁澤、阪谷の兩男を首め各理事出席獻金募集案發表後に於ける諸般の報告及び募集成績調査を爲し兼て今後の募集方法につき協議を遂げたるが同日迄同會本部の接受したる應募額約八千餘萬圓に達し各支部に於て接受したるものを合算すれば優に卅餘萬圓に達すと

◉瀛船坐礁

元山港口にて

鐵道用材を積載し來り荷揚げを了へ十九日午後七時元山を出發浦鹽に向へる筑前若松市柄木氏所有汽船三千丸（一千三百八十四噸）は同日午後七時元山港口萱島附近にて坐礁せり乘組員は幸に無事なるを得たり（元山特電）

◉全市街海水に浸さる

アムステルダム來電に據ればバーマランド（北和蘭の都會）の非常堤防破壞せる爲め海水突入せるを以て非常警報を發し市長は市民に對しオノジ口に避難すべき命令を發せり公報に據ればパーマランド全市は事實上海水の浸すところとなれりザーンダムの狀況も悲慘を極めホン街は浸水し非常橋を流失せり（倫敦電報）

◉謳はれた花形力士

今の年寄稻川死去す

相撲年寄稻川政右衞門（四十七）は去る十七日腦溢血にて死亡せり同人は群馬縣碓氷郡下豐岡村百十二番地五男松本源四郎と云ひ明治十五年先代稻川を頼りて上京し初め豐岡なる力士名にて前相撲を取り後玉風と改名し三十一年五月幕内に進み三十二年一月師の跡目を襲いで稻川となりしが三十四年一月前頭二枚目に昇進したるが同年五月場所には一躍して關脇となり當時の花形力士たり、三十七年五月今の年寄放駒が國見山にて西方の重鎭として今一日にて全勝の榮冠を擔はんとしたる勝負に稻川に敗れたる事あり其より兩三年間は關脇と前頭二枚目邊を上下し居たりしが四十一年一月引退して年寄となり一度檢査員に選まれたる事あり

凋む前 秋風にあはで果つ可き

◉慈善芝居日延

十九日より壽座に於て開演せる女將芝居丸稻會は二十日閉演の筈なりしも意外の盛況を呈せし爲め今二十一日迄日延べすることゝ爲りたるが當日は入場券所持者は勿論其他の者も下足料のみにて入場せしむべしと

◉御眞影燒失

大分縣直入郡白丹村稻葉尋常高等小學校は十六日午前一時出火の爲め先帝今上兩陛下の御眞影を燒失せり原因は前夜敎員數名が村内の若者と宿直室にて酒を飲みたる火鉢の不仕末なりと

妓生になるまで 六

新しき悲劇

拔けられぬ道

京城へ落後の彼は更に〱不幸であつた別れに與へて呉れた教師の言葉は彼に取つて唯だ一つの力草で有つた彼女は何處へ行つても學校へ通つて勉強し得るものと思つて居た

□之ればかりが彼女の唯一の樂しみで亦命であつた

京城へ移つた叔父夫婦は彼女を伴つて廣橋組合の隣りに移つた而して或日叔父夫婦は彼を殘して行衞を晦まして終つた突然彼の身には五百圓と云ふ莫大な借金が負はされて居つた彼は其の日から其の組合に屬して居る小さな温突の中に引取られた、その温突には彼女と同年位の女子が一人居つた、それは白粉と燕脂とに顏の肌も分らぬ程に塗り潰した女で朝から晩まで

□頬を撫でたり髮を結つたりして暮して居る女であつた、妓生の生活とは斯んなものであろうかと始めて彼は悟つた時底知れぬ谷底へ投げ落された樣な絶望に泣いた、しかし泣いて泣いて涙の果てた時に彼女の悲劇は別な形式で進んで行つた。それから後、彼女は同房の二人の姉妹分と共に手を携へて每日歌舞音曲の稽古に出掛けた天才的の彼は此の道に於ても決して負けは取らなかつた朋輩が二三年の辛勞を彼は一二箇月で濟まして終う程であつたから

□彼女は一年經たぬ間に立派な一本の妓生となり了はせた、僧舞劍舞詩調など最も得意とする處であつた。大正三年の一月黃海道沙里院のあるところで新年宴會の有つた時彼は招かれて其の宴席を助けた。沙里院に一週間ばかり滯在して居る間に彼女は斯樣な職業の女の陷る可き道に落ちた。彼女の眼の前には別な世界が開けた彼女は益々凄艷を加へたけれどもまた昔の天女の樣な温かな面影は遂に殘らなかつた（終）

◉女子高普生募集

白色化粧液 美顏ユーマー

朝使へば一日中顏色を活々と美しく保つ

皆樣 御婦人にとつて是れほど重寶な化粧液が復とありませうか。桃谷研究試驗部の學者が、何うかして、總ての婦人方に滿足を與へるやうな、完全な新化粧液を創製し度いものと、固き決心を以て努力したればこそ、こんな重寶な化粧液も出來たのですが

では 何故美顏ユーマーは、朝使へば一日中顏色を活々と美しく保つかと言ひますと、其れは御試になれば直ぐお分りになる通り、美顏ユーマーは色の純白な美しい液であります。而も其れが唯の美しい純白の液ではありません。茲が學者の苦心の點です。

何處に苦心があるかと言ひますと、此美しい〱液を顏へ附けますと、液の美しい色艷が、そのまゝ顏の美しい色艷となつて現れる……といふやうに出來てゐる點にあるのです。然ればこそ美顏ユーマーは朝使へば一日中顏色を活々と美しく保つのです。

のみならず、美顏ユーマーには、次のやうな効能があります。それは、先般桃谷研究試驗部で發見創製したあの垢ヌケする成分、あれを多量に含ませてありますから、美顏ユーマーを續けて使へば、次第〱に垢ヌケして顏の生地までも美しくなり、次に

男子方の眞に男らしい風采は美顏ユーマーをお使用になつて始めてお滿足が得られます。

アレを防ぐには亦美顏ユーマーが此上なしです。此液さへ使つて被居れば、どんな寒さにも顏の荒れる事はありません。それから是はぜひお試し願度いのですが、美顏ユーマーを白粉の溶水に使へば不思議に白粉のノリノビを良くし、どんな白粉のツキの

惡い方でもお化粧が綺麗に而して手早く出來、殊に白粉に美しい色つやを添へますので、それは〱ホントウに美しいお化粧が出來ます。尚一寸お斷りして置度いのは、美顏ユーマーの創製に就ては、桃谷研究試驗部の學者の努力は言迄もない事ですが、今

東京第一の美顏術大家、宮家御用のマリールウキズ孃が一方ならぬ力を添へられた事です。孃は桃谷研究試驗部創製の美顏白粉の品質が飛抜けて良かつたのが非常にお氣に召したと見え、それからといふもの大變に桃谷研究試驗部を御信用になり、何彼と

力を添へられるやうになつたのですが、愈々美顏ユーマーが出來上つた時、ホントウに良いものが出來たと心からお喜び下さつて、早々各宮家へお勸め下すつたので、美顏ユーマーは美顏白粉共々引續き高貴の方々の御用命を辱なうして居りますのです。

大瓶二十錢 小瓶十六錢

千生瓢 (130)

須藤南翠作　筒井年峰畫

杜鵑一聲（十）

勝家は至つて打寛いで、兩人に向つて語つた。

『今度は不慮の事にて、互ひに敵味方と立ち別れたにも拘はらず、筒井殿年來の懇意を御忘れなく、陣中にまで使節を以て、御芳情を謐さるゝ事、今生後生相忘れ申すまい。御計ひの趣き、他人に取つては、尤も左もあるべき事とも存ずるが、勝家に於ては、素性の上よりも、御芳情に任せ難い。筒井殿は知し召すや否や知られまい。最期の記念に、申し聞かすであらう』

斯う言つて扇を膝に突いた。而して感慨無量の態度を示して、

『勝家が祖父にて候ひし者は、斯波家一族の席にも連なつた者ながら、織田殿長臣の子となり、父にて候ひし者も、同じく家老の列おざつた。勝家また故殿の重恩を荷うて、織田家の老臓として、萬事を取計らつた者、故殿の御草履摑みより取立て、木下藤吉郎となり、又立身して羽柴筑前守となるまで、一々勝家が執し申した次第おざる。斯くまで恩を被けた敵の爲に、斯樣に攻め詰められて、幾干もなき命の惜さに、髮剃り毀ち、染衣を身に纏ふ事は、如何にも忍び難うおざるぢや。勝家一人同心致さぬが爲に、法印殿の懇情も無しく相成り申すべき事は、返す〴〵も御氣の毒千萬に存ずれども、此修勝家一人が恥ばかりでない、父、祖父三代の恥辱おざる。幼少より深く教へて侍とするよし、恥を知るを以せられ居る。恥をだに忍ぶべくんば侍たる詮いづこに在るや。法印御坊の事は、强て申さぬ。面々は何れも名譽ある武士の子孫おざるに、此れ程の道理辨へられぬ事はあるまい。然るに法印御坊の旨を承けて、使節として入城せられたは、勝家が何とか申すやらん、其聞いて一場の笑ひ草にせばやとて、遊びがてらの御入來でおかな、、、、』と快よげにうち笑つた。

『いや〳〵其も申して甲斐なき言。此の酒も今宵限りの酔心地ぞ。先づ一獻酌まう』と、用意の大杯を手にして近習の酌にて見事に飲み干した。

『その盃、島左近へ』

斯う言つてまた他の大盃を擧げた而して其をも飲み干して、

『この盃、松倉右近へ』

兩使が面目を施して、北陸道總管領たる一世の英雄の流れを受くる時、勝家は左右を顧みて、

『あはれ昔の勝家ならば、數多の引出物を致すべきに、籠城して、今はと申す時に臨んでは、何事も心に任せぬ』と暫しうち案じてあつたが、忽ち莞爾と點頭き、

『おゝ其よ、此金子、今日にては用のないものぢや、見苦しけれども、兩使に進ずるであらう』と、黄金三枚づゝを、兩人に與へた。

『其ばかりでは、何となく心足らぬ。此の一腰は、勝家隨分秘藏したものぢやが、今は更に何の用にも立たぬ廢刀、貞宗の脇差は、左近へ、兼光の小刀は右近に遣はす。勝家が記念ぢや、納めてくりやれ』

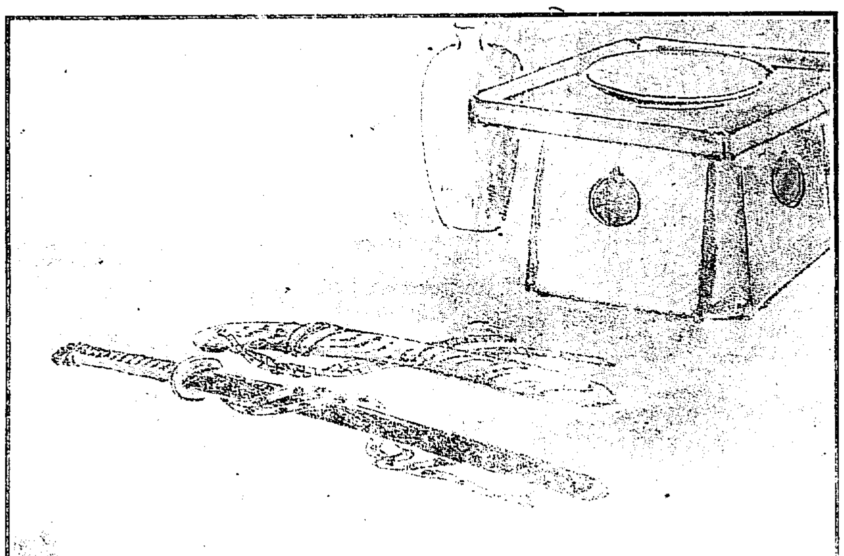
二腰を取つて兩使に與へた。島左近は謹んで二品を押頂き、

『見參を差許され、御盃を賜つたさへ、身に餘る面目おざりまするに、御愛刀の御引手物、幾萬石の御墨付にも增して、左近難有く拜領仕りまする』と、言ふや否や、懷紙を出して、遽だしく涙を押拭つた。

松倉右近も感涙に咽びながら、

『敗ならぬ者に、詳細の御物語り、誠に一期の面目に存じまする。殊に御腰の物一口、黄金三枚、御引手物、何せあれど、右近永く御記念として、松倉の家あらん限り、子々孫々にも相傳へるでおざりませう』と、幾度も押戴いた。

兩使は斯くして退城したが、幾程もなく再び城外に越て、筒井順慶より答禮として、挑燈二十荷、鮮鯛二十尾を送り來し、猶一應主將へ拜謁したいと申し入れた。



募集短文

よび聲

京城　照子

『金魚やーきんぎよう』如何にも夏らしいよび聲。私はこれを聞くと、たとへ初夏の涼しい日にしろ暑い〳〵日の氣がしてならないけれど何となく親しみある其呼び振りに、いつも小聲で節まねをして見る。

『うどん、そばアー』

何といふ哀れなよび聲だらう。夜も更けた枕に響く時など、たまらなく儚になる。けれど此の聲を聞くのがまた好き。冬の夜などは聞き乍ら遂ホロリとするけれど、それでも好き。

『つじー占あぶり出し戀の辻占』

賣り歩く人の身の辛らさよりその雅びめいたわざを床しと思ひ乍ら聞く花さく朧づくよもいゝし、傾きかけた月影に透して聞くのも嬉しい。

『八卦判斷』

何といふ凄いよび聲だらう。何か豫言する樣な又人の心の奥の奥の秘めごと迄さらけ出して見ねばと言樣な鋭い凄い響。その呼び聲が私には何だか、ソロモンに封じられた惡魔の聲の樣に思はれてならない。霙の流の淋しい夜など聞くとたまらなくなる。（二月十七日）

選評　最後の一句を主材として深く描出したら方が面白いものになつたらうと思ふ

○安東塔映吟社

松風居高濱選（秀逸）

ほんやりと拜む人や夕柳
塔の揺るくやうなり陽炎に
陽炎や踊りたる池の跡
つき泥に鉛かく田螺や水温む
鐵洗ふ小魚の群や水温む
陽炎や山寺の門開にして
畑打や若き夫婦の顔足り
梅あり皆みごりして家三五
我果は根岸で來よや露に
ほこ〳〵と陽炎燃ゆや土手の砂
出征の留守も畑打つ女
陽炎や堅悠々と横行す
延の中流む小川や水ぬるむ
浮して光る輝や月か雲
陽炎や標木ふき砂浦十里
陽炎や古新の棟の甍
釣橋を隔てゝ柳と柳かな
露や程々として書に耽る
陽炎や愛馬賢飾の轡の上
雨晴て柳千本夕陽哉
露や米寢た近る宿の晉
土堤三里竝ぶ柳の夜道哉
陽炎や帆船玉な辻に賣る
踏に開綻の籬の直りけり

新刊紹介

△大阪銀行通信錄（一月號）米國の經濟政策問題、英米間クレヂット協定成立、歐米の對外投資活動、英國銀行の過去現在及び將來、貿易改良案其他記事豐富なり（大阪　十八大阪銀行集會所發行）
△拓殖新報（二月號）拓殖男爵田健治郎、新渡戶博士、下村宏、矢作博士其他名士の意見を掲載せり（二十錢東京市拓殖新報社發行）
△朝鮮農會報（二月號）鈴木博士の論題其他特殊な動物朝鮮農業關係の有益な記事多し（二十錢京城朝鮮農會發行）

読者の領分

△東町の某店にいふても何町の誰かが判るまいが表の硝子障子に内側から『入口』と書いた紙が貼りある之を外の方から眺めると『口入』と讀む御心當りの筋は御座いませんか（皮肉家）△皆さん朝寢坊せぬ秘訣をいひませうか夜寢る時に必ず厠に行かずに床に這入るのです（早起生）△貴社の歌謠募集は實に贊成です今日植民的國歌のなかるべからざる今日吾人同士は振つて募集に應ずべく既に考案中である（九州ッ子）△京畿道、慶州、雅梨浦の衛生組合の某に對し大分非難の聲がありますが其分に捨て置けぬらしい（有志代表者）△木浦邊で狂犬に嚙まれた人があつた處が狂犬でないとの獸醫の診斷であつたから其儘にして置たら被害者は忽ち狂犬病を發したが最う手遲れであつて可愛想にも死んだ之れは誤診であらうか（被害者の一族）△永登浦のヒゲの番頭は買物に行くと主人顏をして威張つて困る氣を付けぬと例のを發表するよ（野次馬生）△重石熱が盛なので小生の持山などは大分荒された何うか其筋の取締りを望む（始興の百姓）△京城の酒屋に酒を注文すると始め三四遍は上等物を持て來るけれど何時の間にか中物を持て來て上物の代價を請求する商店がある彼れは詐欺に属するのではあるまいか上戸黨は注意すべし（酒天童兒）

◉大邱兵營敷地献納規定

臨時兵營敷地献納委員部規定

第一條　大邱旅團設置期成會の事務を擁護し又は開會に於て處理する[illegible]員部を置く

第二條　臨時兵營敷地献納委員部に委員長一名委員若干名を置く

第三條　委員長は道事務官を以て之に充て委員は道府又は郡の職員中[illegible]より道長官之を命ず

第五條　委員長は道長官の旨を承け各委員を指揮監督す

第六條　委員は委員長の命を承け左の事務を處理す

一、寄附金勸誘及び[illegible]

[illegible]地買收員を督勵し速に評價委員の評價格に依り土地所有者に土地賣渡承諾書又は賣買契約書の調印を求めしむべし

[illegible]用地内の地上物件にして移轉を要[illegible]

[illegible]地則細圖（地籍圖）を作成すべし土地調書には一筆毎に所在地名地番地目坪數及び所有者名を記載するを要す

[illegible]土地明細圖には地番地目坪數所有[illegible]

第七條　委員部に於て專屬事務員を要するときは期成會に請求して之を附せしむ

第八條　委員部の事務を處理する爲各委員の會議を要する事項は其の[illegible]

△同植松府書記△同土地買收係古川道書記△同[illegible]道書記△同李郡書記△同土地調書作成係谷道書記△同戶田府書記△同氏森郡書記△同[illegible]道技手

[illegible]小屋を襲ひ牝豚一頭を喰ひ殺し何處へか拉し去りたるより金龍瑞は拂曉を待つて之れが搜索を爲したるに西[illegible]

◉大邱高女生募集　大邱公立高等女學校にては二學年生各若干名を募集す、願書は他の提出期は三月二十日限り入學試驗は三月二十五、二十六の兩日なり

京日案内

普通（一回前金三十錢（無割引）匿名一回毎に金五錢增）

◉朝鮮語算術國漢文及法律大意教授　四ヶ月卒業　◉大漢門前　國語普及學舘　398

◉店員入用　年齡十九歳迄市内に確實保證人を要す希望者午前中に來談あれ○京城南大門通　△青木堂　393

◉貸地　南大門通り漢湖農工銀行隣三十坪餘望の御方は◉黄金町二丁目喜多金光堂（電話一〇一五番）　383

◉古本買入　京城本町二　△御報參上　△地方送金　森田文光堂書店　363

◉古本品揃底に付無比高價買入御一報次第即刻參上　▲京城本町四　電話二七八一番へ　書肆群書堂　315

高等寫眞　▲各受驗志願用寫眞は……黄金町二　電一四三四　廉價撮影期日確實……　384

番外（一回前金六十錢（無割引）匿名一回毎に金五錢增）

◉自轉車買受　中古上等二臺入用　◉龍山漢江通六丁目　小林又七鮮朝出張店　399

店員募集　但し夫婦者に限る保證人を要す○京城旭町二丁目　生蠣卸問屋　三友商會　385

◉雛と人形外一切の玩具　東京玩具　二月十五日より大安賣　京城本町二丁目　▲佐藤玩具店　373

貸商　弊店は移轉廣告（元伊佐）御得意樣の便利を計り親切丁寧を旨とし　本町二丁目大正館北横丁南入る　東屋　382

引越荷物　▲思召用疑車　安くて安心　安全輸送が出來ます　南山町三ノ十九　電話三九二番　堀運送社　387

▲閑靜にて眺望佳絶市内出入極便　旅館　下宿　◉客室清潔　◉料理佳良　御相談に應じ候　◉西小門町　電六六三　橫松館（全部電燈完備）　388

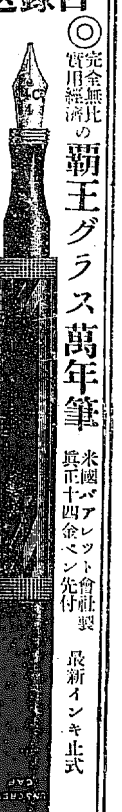
△足踏機械に経驗ある内地人女工を募集す　京城西大門外義州通り　内外精麻社　391

恩給年金類低利長期立換短期不便法あり其他擔保信用貸仕候　○京城南大門外御成町　山口屋　338

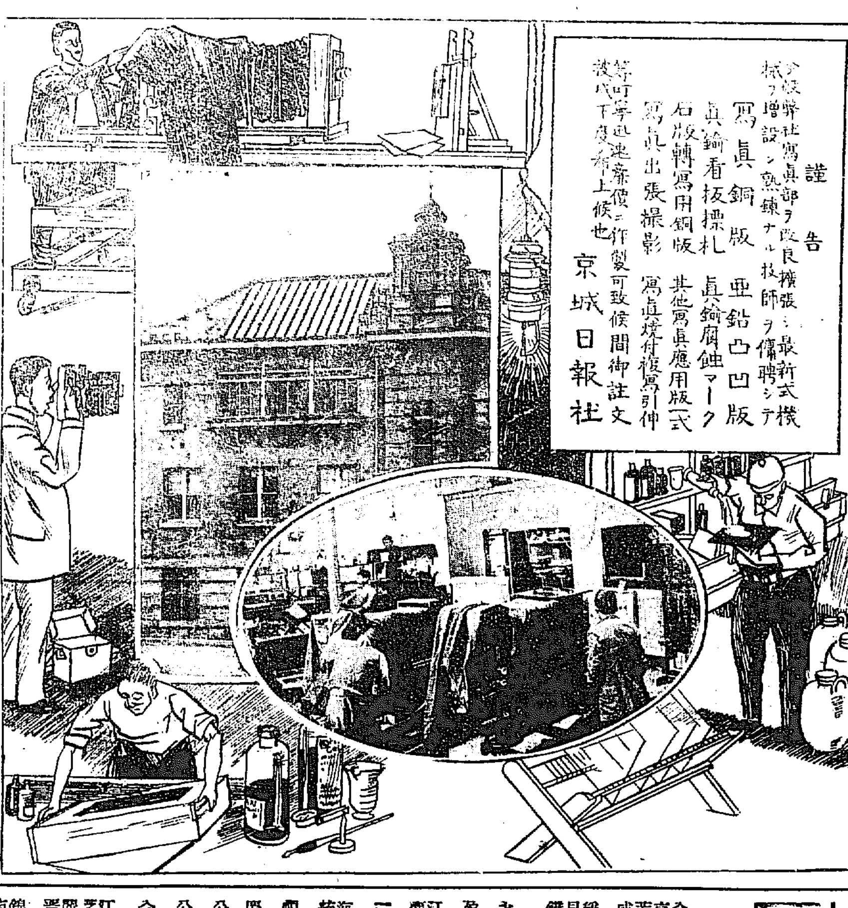
醇良清酒

大阪府堺市　醸造發賣元　肥塚源次郎
京城本町二丁目　特約販賣店　佐藤牧太郎
同　本町三丁目　特約販賣店　明治屋支店

目録送呈



◎完全無比の實用經濟の　覇王グラス萬年筆　米國パアレット會社製　眞正十四金ペン先付　最新インキ止式
●諸官衙銀行會社其他團體にて多數御購買の向へは特に割引仕候
●朝鮮總代理店　京城本町二丁目（電話㊄四五番）振替京城二五六番　釘本藤次郎本店



謹告
今般弊社寫眞部ヲ改良擴張シ最新式機械ヲ增設シ熟練ナル技師ヲ傭聘シテ
寫眞銅版　亞鉛凸凹版
眞鍮看板標札　眞鍮腐蝕マーク
石版轉寫用銅版　其他寫眞應用版式
寫眞出張撮影　寫眞燒付複寫引伸
等何ヶ迅速簾價ニ作製可致候間御註文被成下度希上候也
京城日報社

最上醬油
絶對的品質本位
鮮滿醸造界唯一の名譽
於始政五年朝鮮物産共進會　金牌受領
特許機械製　ほまれ味噌
醸造元仁川港　日本醬油株式會社　電話七五一番振替京城一七四番
京城出張所　電話二四五番振替京城五二三番

近頃弊社の隆盛を羨み東京及全國各地に偽ドラッグを開店し、有り觸れたる賣藥を調製して其筋の免許を得、藥名定價容器店構へ等外見恰も弊社支部の如く裝ひ、以て世人を瞞着し、不許藥味と販賣品とは別物にて僅に十錢の原價を投じて二圓の定價を貪り削せられたる者も有り。
京城南大門外停車塲通り　ドラッグ商會滿鮮本部
本舗　大阪　合資會社　ドラッグ商會
㊄電話二五六七番　振替京城四六七番

りん病　ばい毒　專門藥房
右の外紛はしき商號を用ふる者續出せり眞正なる弊社製品には本舗大阪合資會社ドラッグ商會有田製造と明記しあり此記名無き物は凡て僞物若くは模造品なり弊社は藥効上の責任を重んずる爲他店に取次販賣を許さず直接御注文を乞ふ●ばい毒藥一週間分普通壹圓貳拾錢特製貳圓●りん病藥壹週間分普通貳圓特製參圓●詳細本月二日の本紙御覽

朝鮮郵船

電話長一九五二番　鐵道及其外船と荷客連帶輸送の便あり支店、出張所、代理店、荷客取扱店に照會ありたし　京城南大門驛前　京城荷客取次店　松原運送店（電話二七〇長）

全羅丸　三月一日
京畿丸　二月廿二日
黄海丸　三月三日
咸鏡丸　二月廿六日　神戸より釜山經由各港寄港　釜山發
總城丸　二月廿三日
昌平丸　二月廿一日
鏡城丸　二月廿七日　元山より各港經由雄基行　元山發
永興丸（北久味、五里浦行）每月廿八回　元山發
盈德丸（甘浦、九龍浦、浦項各港寄港浦項行）二月廿一日　釜山發
江陵丸・襄陽丸（長生浦、方魚津寄港）每日（釜山・浦項）發
三浦丸（長承浦、麗水、三千浦、統營寄港）二月二十日　釜山發
海州丸・統營丸・巨濟丸・慶山丸　每日　釜山發
順天丸（各港經由麗水行麗水より釜山行に連絡）三日目每　木浦發
慶興丸（各港經由濟州島西廻）二月廿五日　木浦發
公州丸（各港經由南多島海列島行、月三回）二月廿一日　木浦發
公州丸（各港經由濟州島行（東廻））二月廿二日　木浦發
全州丸（海州鎮各港經由、鎮南浦又は白翎島行）二月　日　仁川發
江原丸（芝罘、大連、青島行）二月廿四日　仁川發
麗水丸・晋州丸（各港經由木浦行）二月廿七日・二月廿二日　仁川發
錦江丸・南陽丸（江華島、桐鶴島、海州行）毎日午前　仁川發
平安丸（往航大黑山、木浦、門司、若松行　復航門司、木浦、群山行）二月廿三日　群山發　二月廿七日　若松發

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸　二月廿六日後四時出帆
大有丸　二月廿日後四時出帆
神代丸　二月廿四日後四時出帆
蛟龍丸　月　日後四時出帆
君が代丸　月　日後四時出帆
仁川海岸通二丁目（電話五十九番）　高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行　丸　二月廿二日後五時出帆
○元山清津浦鹽行　立神丸　三月十六日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行　小倉丸　三月七日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行　小倉丸　二月廿四日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三琴平丸　三月十日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行　第三琴平丸　三月一日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　天與丸　每月二日九日十六日廿三日　午後十時出帆
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

第大共同丸（關東都督府命令航路）芝罘、大連行　二月廿　日後二時入港　二月廿二日前九時出帆
朝鮮總督府命令航路　大連にて南島行定期船に接續荷客通し輸送御取扱仕候
第一咸鏡丸　城津、清津、浦鹽行（元山出帆）　月　日後九時　月　日出港
第三丸　西湖津沿岸各港を経て雄基行（元山出帆）　月　日前八時　月　日出帆
阿波國共同汽船株式會社
本町一丁目（電話一〇八番）仁川代理店　山下回漕部
春日町（電話二四四七番）元山代理店　田口回漕部
南大門電話（二六八二〇七）京城取次店　河村運送店